

小早川欣吾先生略年譜・著作目録（十六訂稿）

（令和 7（2025）年 8 月 9 日（土）現在）

〔目 次〕

（作成経緯）	3
【参考 HP】	5
【関連 HP】	9
十六訂稿はしがき	11
十五訂稿はしがき	11
十四訂稿はしがき	11
十三訂稿はしがき	12
十二訂稿はしがき	12
十一訂稿はしがき	12
十訂稿はしがき	13
九訂稿はしがき	13
八訂稿はしがき	14
七訂稿はしがき	15
六訂稿はしがき	16
五訂稿はしがき	17
四訂稿はしがき	17
三訂版増補版はしがき（三訂稿）	18
三訂版はしがき（三訂稿）	19
改訂版はしがき（改訂稿）	20
初版はしがき（初稿）	21
〔凡 例〕	23
（〔凡例-11〕 CD 版『小早川欣吾先生東洋法制史論集（増補版）』目次	24）
1 略年譜	27
2 著作目録	31
（1）著書	31
（2）共編書（編纂）	34
（3）論説その他	35
〔附 1〕『明治法制叢考』（昭和 20（1945）年 11 月 15 日刊）	42
〔附 2〕『続明治法制叢考』（昭和 19（1944）年 3 月 20 日刊）	43
（4）参考	44
ア 追悼・回想	44
イ 関連	45
ウ 小早川欣吾先生略年譜・著作目録一覧	51

エ 小早川欣吾先生メモ（第一輯（補訂二稿））	53
はじめに	53
（ア）小早川先生との出会い	54
（イ）小早川先生追想論稿	54
（ウ）小早川先生の処女論文	55
（エ）日本法制史の講義	55
（オ）小早川先生出題の「東洋法制史」の試験問題	56
（カ）京大法学部各種研究会との関係	57
（キ）「社会経済史学会」と小早川先生	59
（ク）「憲法史研究会」と小早川先生	59
（ケ）手塚豊博士と小早川先生	59
（コ）栗生武夫先生との関係	59
（サ）小早川文庫のこと	60
（参考 1）『小早川欣吾先生東洋法制史論集』収録論稿目次その他（三訂稿）の件	60
（参考 2）牧健二博士・牧英正博士関係資料（平成 30（2018）年 9 月 9 日追加）	60
〔人名索引〕（ただし、内容、頁数は「八訂稿」時のものであるが、参考までに残しておく。）	62～65

(作成経緯)

- ・平成 7 (1995) 年 8 月 15 日 初稿作成 (以下省略。後掲「2 (4) ウ 小早川欣吾先生略年譜・著作目録一覧」参照。)

(HP 初載)・平成 16 (2004) 年 3 月 11 日 (木) 六訂稿 (平成 15 (2003) 年 9 月 1 日作成) アップ (テキスト版)

(爾後、本来の七訂稿、八訂稿とは別に HP 上で補訂を繰り返す。)

- ・平成 29 (2017) 年 11 月 18 日 (金) 九訂稿作成 (PDF 版に変更)

(※ 九訂稿以降の改訂は当分の間枝番を付けて改訂状況を示すこととする。)

- ・平成 30 (2018) 年 9 月 9 日 (日) 九訂稿-1 作成

(牧英正博士御逝去関係記事、金田平一郎博士著・和仁かや教授監修『近世民事責任法の研究』(九州大学出版会、平成 30 年 9 月 10 日刊) 刊行関係記事等を追加した。)

- ・令和元 (2019) 年 9 月 6 日 (金) 九訂稿-2 作成

(趙晶副教授「論小早川欣吾の東洋法制史研究」『法制史研究』第 34 期 (台北、2018 (平成 30) 年 12 月刊) 関係を追加するとともに、全体を補正した。)

- ・令和 3 (2021) 年 11 月 9 日 (火) 十訂稿作成

(レイアウトを全面変更するとともに、全体を補正した。)

- ・令和 4 (2022) 年 4 月 1 日 (金) 十一訂稿作成

(全体を補正した上で、『CD 版 宮崎道三郎博士・小林宏先生・西村稔先生・高橋由利子先生略年譜・著作目録―【参考篇】【附篇】―ローマ法・法制史学者著作目録選 (第十五輯) 一』(令和 4 (2022) 年 4 月 1 日刊) に収録。)

- ・令和 4 (2022) 年 6 月 30 日 (木) 十二訂稿作成

(誤植を訂正するとともに、全体を補正した。)

- ・令和 5 (2023) 年 7 月 11 日 (火) 十三訂稿作成

(令和 5 (2023) 年 7 月 7 日西英昭先生から、「辞典執筆 67 項目」山口経済専門学校東亜経済研究会編『支那社会経済大辞典』第 1 巻 (アーカ、奥付では「全八巻の内 第一巻」とある。大雅堂、昭和 19 (1944) 年 12 月 15 日刊。『支那社会経済大辞典』は終戦により第 1 巻のみ刊行された。) について御教示をいただけたので追加した。また、十二訂稿まで省略していた「三訂版増補版はしがき (三訂稿 B)」、「三訂版はしがき (三訂稿 A)」及び「改訂版はしがき (改訂稿)」を復活した。その他、誤植を訂正するとともに、全体を補正した。)

- ・令和 6 (2024) 年 3 月 21 日 (木) 十四訂稿作成

(全体を補正するとともに、今回から黒赤二色使用とした。)

- ・ 令和 7（2025）年 1 月 1 日（水） 十五訂稿作成

（西英昭先生「瀧川政次郎の東洋法制史学に関する中間報告」『法政研究』第 91 巻第 3 号（令和 6（2024）年 12 月刊）が出され、本「略年譜・著作目録」（十三訂稿）で暫定的に追加した小早川欣吾先生の山口経済専門学校東亜経済研究会編『支那社会経済大辞典』関係分も公表されたので追加修正した。）

- ・ 令和 7（2025）年 8 月 9 日（土） 十六訂稿作成

（誤植を訂正するとともに、全体を補正した。）

【参考 HP】

（令和 3（2021）年 11 月 9 日全面差替、同 4（2022）年 6 月 30 日、同 5（2023）年 7 月 11 日、同 6（2024）年 3 月 21 日、同 7（2025）年 1 月 1 日各一部修正）

* 法制史学会 HP（平成 14（2002）年 10 月 5 日公開、平成 24（2012）年 4 月 1 日移転）

〈<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jalha/toppage.htm>〉 ⇒

（新） 〈<https://www.jalha.org/>〉

・ 〈<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%8A%E5%B1%B1%E5%AE%89%E6%95%8F>〉

* 全体 HP

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/>〉

・ 「日本のローマ法」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Romanist2003.htm>〉

・ 「法制史学者著作目録選（WEB 版）」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm>〉

・ 「「法制史コーナー」 所載項目一覧」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ichiran002.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：宮崎道三郎博士略年譜・著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/miyazaki001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：池辺義象氏著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ikebe001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：三浦周行博士関係資料抄

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/miura001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：中田薫博士関係資料抄

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nakata001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：牧健二博士関係資料抄

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/makikenji001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：内藤吉之助教授略年譜・著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/naito001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：瀧川政次郎博士関係資料抄

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/takikawa001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：金田平一郎博士略年譜・著作目録

〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kaneda001.pdf>〉

・ 本 HP 本稿：小早川欣吾先生略年譜・著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayakawa001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：「小早川欣吾先生記念メダルによせて

—小田輝子氏「叔父小早川欣吾の思い出」とともに—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/odateruko.pdf>〉

- ・ 本 HP 別稿: 『小早川欣吾先生東洋法制史論集』収録論稿目次その他」
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayakawa_toyohoseishi.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayakawa_toyohoseishi.pdf)
 - ・ 本 HP 別稿: 牧英正博士著作目録等抄
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/maki001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/maki001.pdf)
 - ・ 本 HP 別稿: 小林宏先生著作目録等抄
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayashi001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayashi001.pdf)
 - ・ 本HP別稿: 千賀鶴太郎博士著作目録
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/senga001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/senga001.pdf)
 - ・ 本HP別稿: 戸水寛人博士著作目録
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tomizu001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tomizu001.pdf)
 - ・ 本HP別稿: 春木一郎博士略年譜・著作目録
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/haruki001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/haruki001.pdf)
 - ・ 本HP別稿: 原田慶吉教授略年譜・著作目録
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/harada2003.htm〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/harada2003.htm)
 - ・ 本HP別稿: 船田享二博士略年譜・著作目録
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/funada2003b.htm〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/funada2003b.htm)
 - ・ 本HP別稿: 田中周友博士略年譜・著作目録
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tanaka2003b.htm〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tanaka2003b.htm)
 - ・ 本HP別稿: 栗生武夫先生略年譜・著作目録
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu001.pdf)
 - ・ 本 HP 別稿: 「栗生武夫先生『婚姻法の近代化』の中訳本について」
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_chuhon.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_chuhon.pdf)
 - ・ 本 HP 別稿: 「『栗生武夫先生隨筆拾遺』作成の思い出
 —『栗生武夫先生隨筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯—」
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_zuihitsu_shui.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_zuihitsu_shui.pdf)
 - ・ 本 HP 別稿: PDF 版『栗生武夫先生隨筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯—』
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_zuihitsu_shui_002.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_zuihitsu_shui_002.pdf)
 - ・ 本HP別稿: 西本穎博士著作目録等抄
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nishimoto001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nishimoto001.pdf)
 - ・ 本HP別稿: 久保正幡博士著作目録等抄
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kubo001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kubo001.pdf)
 - ・ 本HP別稿: 井上周三教授関係資料抄
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/inoue001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/inoue001.pdf)
 - ・ 本HP別稿: 上山安敏先生著作目録等抄
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ueyama001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ueyama001.pdf)
- (参考: 上山安敏先生追悼文集) (令和7(2025)年8月9日追加)
- [〈http://hdl.handle.net/2433/285555〉](http://hdl.handle.net/2433/285555)

- ・本HP本別稿： 笥克彦博士略年譜・著作目録
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kakei001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kakei001.pdf)
- ・本HP別稿： 近藤英吉博士略年譜・著作目録
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kondo001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kondo001.pdf)
- ・本HP別稿： 増田福太郎博士関係資料一斑
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/masuda001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/masuda001.pdf)
- ・本 HP 別稿： 山崎丹照先生著作目録
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/yamazaki001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/yamazaki001.pdf)
- ・本 HP 別稿： 戴炎輝博士略年譜・著作目録
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Tai_Yen-hui001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Tai_Yen-hui001.pdf)

＊和田徹氏HP「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」（令和5（2023）年12月31日閉館）

- ・[〈http://home.q02.itscom.net/tosyokan/〉](http://home.q02.itscom.net/tosyokan/)
- ・春木一郎電子文庫（和田徹氏寄贈図書）
[〈http://home.q02.itscom.net/tosyokan/haruki.htm〉](http://home.q02.itscom.net/tosyokan/haruki.htm)
- ・原田慶吉電子文庫（和田徹氏寄贈図書）
[〈http://home.q02.itscom.net/tosyokan/harada.htm〉](http://home.q02.itscom.net/tosyokan/harada.htm)
- ・栗生武夫電子文庫（和田徹氏寄贈図書）
[〈http://home.q02.itscom.net/tosyokan/kuryu.htm〉](http://home.q02.itscom.net/tosyokan/kuryu.htm)
- ・いろいろ電子文庫
[〈http://home.q02.itscom.net/tosyokan/iroiro.htm〉](http://home.q02.itscom.net/tosyokan/iroiro.htm)
- ・PD 図書室（「梅雨空文庫」のデータを整理してまとめたもの）
[〈http://books.salterrae.net/about/tuyuzora.html〉](http://books.salterrae.net/about/tuyuzora.html)

（註）早くには「船田享二電子文庫」の平成22（2010）年開設予告もなされていた（平成14（2002）年12月14日初出か?）が、その後平成18（2006）年6月3日に「2006/06/03 船田享二電子文庫計画中止」の表示が出た。

⇒（令和 7（2025）年 1 月 1 日追加）

＊先に閉館した上記和田徹氏 HP「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」は、令和 6（2024）年 6 月 5 日（水、公開公表日）に再開された。

- ・[〈http://tosyokan.my.coocan.jp/〉](http://tosyokan.my.coocan.jp/)
- ・春木一郎電子文庫（和田徹氏寄贈図書）
[〈http://tosyokan.my.coocan.jp/haruki.htm〉](http://tosyokan.my.coocan.jp/haruki.htm)
- ・原田慶吉電子文庫（和田徹氏寄贈図書）
[〈http://tosyokan.my.coocan.jp/harada.htm〉](http://tosyokan.my.coocan.jp/harada.htm)
- ・栗生武夫電子文庫（和田徹氏寄贈図書）
[〈http://tosyokan.my.coocan.jp/kuryu.htm〉](http://tosyokan.my.coocan.jp/kuryu.htm)

・いろいろ電子文庫

〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/iroiro.htm>〉

・梅雨空文庫

〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/tuyuzora.htm>〉

＊「西村稔先生（1947～2019）年譜・著作目録（阪本尚文編）（初版）（2020（令和2）年4月現在）」⇒爾後逐次改訂中⇒（最新版：令和5（2023）年11月現在第8稿掲載）

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nishimura001.pdf>〉

（註）本著作目録は、阪本尚文編『Aún aprendo それでもまだ学ぶぞ——西村稔先生追悼集』（私家版、2020（令和2）年2月28日刊（福島大学学術機関情報リポジトリ所収〈<http://hdl.handle.net/10270/5154>〉）に収録した「西村稔先生年譜・著作目録」に逐次修正を加えつつあるものである。

【関連 HP】

（令和 3（2021）年 11 月 15 日全面差替、同 4（2022）年 6 月 30 日、同 5（2023）年 7 月 11 日、同 6（2024）年 3 月 21 日各一部修正）

- ・法制史学会：〈<https://www.jalha.org/>〉
- ・国立国会図書館：〈<https://www.ndl.go.jp/>〉
- ・国立国会図書館デジタルコレクション 〈<https://dl.ndl.go.jp/>〉
- ・国立国会図書館個人向けデジタル化資料送信サービス（個人送信）（令和 4（2022）年 5 月 19 日開始）

〈https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital_transmission/individuals_index.html〉

（下記：令和 5（2023）年 1 月 26 日追加）

〈https://www.ndl.go.jp/jp/news/fy2022/221202_01.html〉

「ホーム>新着情報>ニュース> 「国立国会図書館デジタルコレクション」をリニューアルします（令和 4 年 12 月 21 日）

「2022 年 12 月 2 日「国立国会図書館デジタルコレクション」をリニューアルします（令和 4 年 12 月 21 日）」

国立国会図書館は、令和 4 年 12 月 21 日に、国立国会図書館デジタルコレクションをリニューアルします。リニューアルにより、全文検索可能なデジタル化資料が増加するとともに、閲覧画面が改善されます。詳しくはプレスリリースをご覧ください。」

- ・（下記：令和 6（2024）年 1 月 1 日追加）

「2024 年 1 月 5 日 新「国立国会図書館サーチ」を公開しました」⇒

「国立国会図書館は、従来のウェブサービス「国立国会図書館検索・申込オンラインサービス（国立国会図書館オンライン）」及び「国立国会図書館サーチ」を統合・リニューアルし、令和 6 年 1 月 5 日（金）から、新「国立国会図書館サーチ」としてサービスを開始しました。」

〈https://www.ndl.go.jp/jp/news/fy2023/240105_01.html〉

- ・国立国会図書館次世代デジタルライブラリー

〈<https://lab.ndl.go.jp/service/tsugidigi/>〉

- ・CiNii: 〈<https://ci.nii.ac.jp/>〉 ⇒ 〈<https://cir.nii.ac.jp/>〉（【[2022] 4/18 更新】CiNii Articles の CiNii Research への統合について）、〈<https://ci.nii.ac.jp/books/>〉

- ・朝日新聞クロスサーチ（令和 4（2022）年春「聞蔵Ⅱビジュアル」を全面リニューアル）

〈<http://www.asahi.com/information/db/2for1.html>〉

- ・ヨミダス歴史館

〈<https://database.yomiuri.co.jp/about/rekishikan/>〉

- ・毎索（マイサク）

〈<http://xn--https-ft8kv51h//mainichi.jp/contents/edu/maisaku/>〉

- ・雑誌記事索引集成データベース「ざっさくプラス」（令和 5（2023）年 1 月 26 日追加）

〈<http://info.zassaku-plus.com/>〉

< https://zassaku-plus.com/service/login?return_url=https%3A%2F%2Fzassaku-plus.com%2F>

十六訂稿はしがき

小田輝子様関係記載を中心に更に一、二補正し、十六訂稿を作成した。

令和 7 (2025) 年 8 月 9 日

編 者 謹 誌

十五訂稿はしがき

今般待望の西英昭先生「瀧川政次郎の東洋法制史学に関する中間報告」『法政研究』第 91 巻第 3 号（令和 6 (2024) 年 12 月刊）が出され、本「略年譜・著作目録」（十三訂稿）で暫定的に追加した山口経済専門学校東亜経済研究会編『支那社会経済大辞典』関係も公表されたので、小早川欣吾先生分を追加修正した。西先生の御厚意に深く感謝申し上げます。

〈 https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_detail_md/?reqCode=frombib&lang=0&amode=MD100000&opkey=b151800832901880&bibid=7329609&start=〉

令和 7 (2025) 年 1 月 1 日

編 者 謹 誌

十四訂稿はしがき

先般『CD 版 上山安敏先生・柴田光蔵先生・西村稔先生・宮崎道三郎博士・池辺義象氏・小林宏先生・千賀鶴太郎博士・戸水寛人博士略年譜・著作目録 附録：「日本ローマ法・法制史学者等略年譜・著作目録・追悼辞」掲載資料抄（追補）中田薫博士・瀧川政次郎博士・三浦周行博士・牧健二博士各関係資料抄 一ローマ法・法制史学者著作目録選（第十六輯）一』（CD 版、令和 6 (2024) 年 1 月 1 日刊）が出たことから、本「小早川欣吾先生略年譜・著作目録」も、一部補正を加え、「十四訂稿」を作成しておくこととした。

令和 6 (2024) 年 3 月 21 日

編 者 謹 誌

十三訂稿はしがき

令和 5 (2023) 年 7 月 7 日、西英昭先生から、山口経済専門学校東亜経済研究会編『支那社会経済大辞典』第 1 卷（アーカ、奥付では「全八巻の内 第一巻」とある。大雅堂、昭和 19 (1944) 年 12 月 15 日刊。『支那社会経済大辞典』は終戦により第 1 巻のみ刊行されて中断。）中に小早川欣吾先生執筆の 67 項目が存在するという貴重な御示教をいただい、本稿に追加することができた。今頃小早川欣吾先生の公刊物に接することができるとは思ってもいなかったもので、ただただ感激いたしたところである。西先生の格別の御厚情に深く感謝申し上げる次第です。

また、前回改訂の十二訂稿までは省略していた「三訂版増補版はしがき（三訂稿）」、「三訂版はしがき（三訂稿）」及び「改訂版はしがき（改訂稿）」を復活させ、再掲した。

令和 5 (2023) 年 7 月 11 日

編 者 謹 誌

十二訂稿はしがき

今次、更に一、二補正し、十二訂稿を作成した。この機会に、「四訂稿～七訂稿はしがき」を再掲した。

令和 4 (2022) 年 6 月 30 日

編 者 謹 誌

十一訂稿はしがき

今次更に一、二補正し、十一訂稿を作成の上、『CD 版 宮崎道三郎博士・小林宏先生・西村稔先生・高橋由利子先生略年譜・著作目録―【参考篇】【附篇】―ローマ法・法制史学者著作目録選（第十五輯）―』（令和 4 (2022) 年 4 月 1 日刊）に収録した。

令和 4 (2022) 年 4 月 1 日

編 者 謹 誌

十訂稿はしがき

上山安敏先生には、去る令和 3（2021）年 10 月 28 日（木）忽焉として逝かれた。96 歳。謹んで御冥福をお祈りいたします。

本稿は、「九訂稿はしがき」中に誌したように、抑々は五十余年もの昔上山先生に親しく御指導いただいたものに遡る。このため、急遽本十訂稿を作成した。改めて先生御生前の御高教と御厚情に深甚の謝意を表します。

前回九訂稿（平成 29（2017）年 11 月 18 日作成）以降の改訂は、当分の間九訂稿に枝番を付けて改訂状況を示すこととし、九訂稿-1（平成 30（2018）年 9 月 9 日作成）及び九訂稿-2（令和元（2019）年 9 月 6 日作成）の二稿を作成したが、今後はレイアウトを全面変更するとともに、上記九訂稿-2 を更に改訂したことから、十訂稿と名付けたことをお断りしておく。

令和 3（2021）年 11 月 9 日

編 者 謹 誌

九訂稿はしがき

「法制史学者著作目録選（WEB 版）」掲載のテキスト版「小早川欣吾先生（1900～1944）」
〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm>〉、
〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayakawa2003a.htm>〉は、「著作目録（六訂稿）（平成 15 年 9 月 1 日現在）」を基にして、補訂を繰り返し（補訂履歴：平成 18 年 6 月 4 日、平成 19 年 8 月 4 日、12 月 21 日、平成 20 年 2 月 28 日、平成 21 年 5 月 10 日、8 月 15 日、平成 22 年 9 月 16 日、10 月 31 日、平成 24 年 6 月 6 日、平成 25 年 12 月 8 日、平成 26 年 5 月 20 日、平成 28 年 8 月 1 日）、最終的には「（最新補訂平成 28 年 8 月 1 日）」現在で今に至った。

平成 19（2007）年 1 月作成の「七訂稿」との関連については、冒頭註で、
「（註）：平成 19（2007）年 1 月 1 日に、別途、冊子版、CD 版で、「小早川欣吾先生略年譜・著作目録（七訂稿）」を作成した（『栗生武夫先生・小早川欣吾先生・戴炎輝博士・小林宏先生・山崎丹照先生略年譜・著作目録（二訂版）—内藤吉之助教授・金田平一郎博士著作目録（初稿）—ローマ法・法制史学者著作目録選（第 8 輯）—』（平成 19 年 1 月 1 日刊。小早川欣吾先生分は七訂稿）。しかるに、本稿は、諸般の事情により、平成 15 年 9 月 1 日作成の六訂稿を適宜補訂しているものであって、上記七訂稿を基にしているものでないことをお断りしておく。（平成 19 年 12 月 21 日追加）」
と記したところである。

また、その後、平成 28（2016）年 8 月に、CD 版『小早川欣吾先生東洋法制史論集（増

補版) 併載: 小早川欣吾先生略年譜・著作目録(八訂稿) —ローマ法・法制史学者著作目録選(第十二輯)—』(平成 28(2016)年 8 月 1 日刊)を作成したが、そこに、併載として、七訂稿を改訂した「小早川欣吾先生略年譜・著作目録(八訂稿)」を収録した。ただ、本 HP 上は、これとは別に、平成 15 年 9 月 1 日作成の六訂稿をそのまま適宜補訂してきたにとどまる。

しかるに、今般、諸般の事情により、「法制史学者著作目録選(WEB 版)」掲載のもののうちテキスト版でアップしたままになっているものを、他との整合性をとるため、すべて PDF 版と差し替えることにしたことから、小早川欣吾先生分についても、新たに上記八訂稿を基にして九訂稿を作成し、PDF 版で掲載することとした。

すなわち、本九訂稿は、平成 28(2016)年 8 月作成の上記 CD 版中のもの(八訂稿)を一部加えるとともに、八訂稿以降に気がついたものを追加し、全体に多少の改訂をなしたものである。目録追加分については追加年月日を記載し、八訂稿以降のものであることを明示した。国立国会図書館のデジタル資料についてはその後名称変更等がなされているが、諸々の制約で本稿ではそれを反映させていないことをお断りしておく。いずれ修正の予定でいる。

本来ならば更に精査すべきであったが、今回は急に思い立って差し替えたため、ほとんどなにもできなかったことを甚だ遺憾に思う。出来るだけ早く十訂稿作成に向けて努力したいと考えているので、御示教いただければ幸いである。

抑々本稿作成の発端は、栗生武夫先生の場合と同じく、五十年もの昔御理解と御示唆を賜った上山安敏先生の御厚情に拠る。改めてここに先生に厚く御礼申し上げるものである。

平成 29(2017)年 11 月 18 日

編 者 謹 誌

(追記)

・本九訂稿は、その後『CD 版 ローマ法、法制史、明治警察史及び日本統治下台湾警察史の諸問題—ローマ法・法制史学者著作目録選(第十三輯)— —明治警察史雑纂(第四輯)— —日本統治下台湾警察史雑纂(第八輯)—』(平成 30(2018)年 1 月 1 日刊)にも収録した。)

〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm>〉

八訂稿はしがき

小早川欣吾先生の略年譜・著作目録については、初稿である「小早川欣吾先生著作等目録稿」(『栗生武夫先生・船田享二博士・小早川欣吾先生著作等目録稿』(平成 7(1995)年 8 月 1 日刊)所載)以降七訂稿(平成 19(2007)年 1 月 1 日刊)まで作ったが、今般

CD 版『小早川欣吾先生東洋法制史論集（増補版） 併載：小早川欣吾先生略年譜・著作目録（八訂稿） —ローマ法・法制史学者著作目録選（第十二輯）—』（平成 28（2016）年 8 月 1 日刊）を編纂するに当たり、その後の判明事項等を踏まえ、本八訂稿を作成した。

本稿は、本 CD 版『小早川欣吾先生東洋法制史論集（増補版） 併載：小早川欣吾先生略年譜・著作目録（八訂稿） —ローマ法・法制史学者著作目録選（第十二輯）—』においては、先の『小早川欣吾先生洋法制史論集』（冊子版、平成 8（1996）年 6 月 25 日刊）所収「附録 小早川欣吾先生著作等目録稿」（三訂稿）の最新増補改訂稿の意味を有することをお断りしておく。ただ、これとて未だ十全のものとはいえず、識者の更なる御示教をお願いいたしますものである。

平成 28（2016）年 8 月 1 日

編 者 謹 誌

（「小早川欣吾先生略年譜・著作目録（八訂稿）」（平成 28（2016）年 8 月 1 日作成）（CD 版『小早川欣吾先生東洋法制史論集（増補版） 併載：小早川欣吾先生略年譜・著作目録（八訂稿） —ローマ法・法制史学者著作目録選（第十二輯）—』（平成 28（2016）年 8 月 1 日刊）所載）

七訂稿はしがき

今般、前稿（六訂稿、本「著作目録選」第一輯所収）の縦書きを横書きに直した上で、気のついた限りで補正し、かつ附篇一篇を加えて、七訂稿とした。ちなみに、昨平成 18（2006）年には、小早川欣吾先生関係で、次のことがあった。

前に御令姪の小田輝子様より長年御愛蔵されていた小早川先生の遺品である記念メダル 2 個（①第 3 回東西両大学対抗競技優勝メダル（小早川欣吾君、1926 年、京都帝国大学陸上競技部）、②山口高等学校運動会メダル（1924 年））や山口高校御在校時の多数の御写真等を託されていたが、記念メダルについては、松尾尊兌先生、西山伸先生の御高配で、昨年 2 月 15 日、京都大学大学公文書館に無事お納めいただけた。その後、同年 9 月初めに、彦根市御在住の小早川先生御令弟の小早川巖様が 99 歳で逝去された。かつて小早川先生の御事蹟を勉強するに当たり、同氏に御指導方をお願いいたしたところ、小田様を御紹介いただけたことが、今につながっており、ただただその折の御厚情に感謝し、謹んで御冥福をお祈りいたしますものである。

今後も小早川先生の御事蹟について更に検討していきたいと考えているので、御示教をお願いできれば幸甚である。

平成 19 (2007) 年 1 月 1 日

編 者 謹 誌

(『栗生武夫先生・小早川欣吾先生・戴炎輝博士・小林宏先生・山崎丹照先生略年譜・著作目録(二訂版) —内藤吉之助教授・金田平一郎博士著作目録(初稿) — —ローマ法・法制史学者著作目録選(第八輯) —』(平成 19 (2007) 年 1 月 1 日刊、CD 版あり。))

六訂稿はしがき

平成 10 (1998) 年 3 月 20 日に五訂稿を出してから、五年余りが過ぎた。早く改訂をと考えていたが、なかなか取りかかれず、今般、漸くその後の調べを基に補正した六訂稿を作成した。これとて未だ不十分なものであり、今後も更に補訂に努めたいと考えているので、よろしく御示教の程お願い申し上げる次第である。

五訂稿までは、小早川先生の御令姪の小田輝子様、牧英正先生はじめ多くの先生方に御指導をいただいていたが、今回は、加えて、『歴史学事典・5・歴史家とその作品』(弘文堂、平成 9 (1997) 年 10 月 15 日刊) に「小早川欣吾」を執筆された大平祐一先生からも貴重な御教示を賜った。ここに誌して深甚の謝意を表する。

また、小田輝子様には、四訂稿及び五訂稿にお寄せいただいた御玉稿の再掲をお願いしたところ、御多忙を極めておられるにもかかわらず、わざわざ御加筆の上、お許し下さった。謹んで厚く御礼申し上げたい。小田様には、前に小早川先生の山口高等学校在学中の貴重な御遺品等をもいただいているが、これらも、いずれ何らかの形で紹介の機会を持てることを願っている。

なお、以前刊行した『小早川欣吾先生東洋法制史論集』(自己出版、平成 8 (1996) 年 6 月 25 日刊) に、一、二漏らしたものがあり、多年気にかかっていたが、本六訂稿に補遺(第一輯)の形で取りあえず収録した。上記論集は極少数の限定発行のため際再刷が要望されているが、その時には、これらも改めて再録したいと考えている。

平成 15 (2003) 年 9 月 1 日

武州荏田にて

編 者 謹 誌

(註 1) 『栗生武夫先生・小早川欣吾先生・戴炎輝博士略年譜・著作目録(新版) [附] 『小早川欣吾先生東洋法制史論集』(平成 8 年 6 月 25 日刊) 補遺(第一輯) —ローマ法・法制史学者著作目録選(第一輯) —』(平成 15 (2003) 年 9 月 1 日刊)(栗生先生分は五訂稿、小早川先生分は六訂稿、戴博士分は二訂稿)

(註 2) 「『小早川欣吾先生東洋法制史論集』(自己出版、平成 8 年 6 月 25 日刊) 補遺(第

一輯)」に、補遺として掲載した小早川先生の御論稿は、次のものである。

「第二部 書評

(10) 瀧川政次郎氏『律令の研究』(『法学論叢』第26巻第6号、昭和6年12月刊)

(11) 瀧川政次郎氏『法律史話』(『法律時報』第5巻第1号、昭和8年1月刊)」

(下記：令和4(2022)年6月30追加)

(註3)『小早川欣吾先生東洋法制史論集』は、その後『CD版：小早川欣吾先生東洋法制史論集(増補版)併載：小早川欣吾先生略年譜・著作目録(八訂稿) —ローマ法・法制史学者著作目録選(第十二輯)一』(私家版、製作：常盤印書館、平成28(2016)年8月1日刊。牧英正先生「小早川欣吾先生の東洋法制史論集上梓によせる序」、小田輝子氏「叔父小早川欣吾の思い出」再掲。)として復刊した。

五訂稿はしがき

昨秋、本書四訂稿を上梓したが、本年に入ってから、ローマ法、法制史関連目録を二、三まとめた(本書(五訂稿)58頁以下参照)ので、これに倣って、本書五訂稿を作成した。ただし、敢えて五訂稿と名付けたものの、体裁を整え、誤植を正し、人名索引を付した以外は、四訂稿と略々同様のもの(本書(五訂稿)60頁以下参照)である。御諒恕を乞いたい。

今後も更に改訂に努めたいと考えているので、御示教の程を切に願う次第である。

平成10(1998)年3月20日

遥かに富士を仰いで、 於安東

編者 謹誌

(『小早川欣吾先生略年譜・著作目録(五訂稿)』(平成10(1998)年3月20日刊))

四訂稿はしがき

小早川欣吾先生については、先に『栗生武夫先生・船田享二博士・小早川欣吾先生著作目録稿(三訂版)』(平成8年2月1日刊)において、その御略歴及び御著作目録を取りまとめたところであるが、その後、幾多の過誤、脱漏が判明したため、早く四訂稿を作成したいと考えていた。

しかして、先般、『日本ローマ法学四先生略年譜・著作目録(初稿)』(平成9年3月27日刊。(追記)〔改訂版〕平成10年3月1日刊)中で、船田享二博士分について四訂稿を

作成したことから、今回は、上記目録稿そのものの四訂稿ではなく、小早川先生単独で四訂稿を作ることとした。表題を上記書に合わせるとともに、気づいたところは、かなり補正し、参考として、上記目録稿に付した「小早川欣吾先生メモ（第一輯）」を改訂増補したものをつけたが、なお不十分な点が多い。大方の御示教を得て、更に補正に努め、完璧を期したいと考えている。

大阪市立大学名誉教授牧英正先生、小早川先生御令姪の小田輝子様には、近年、格別の御高配を忝うしているが、今般、四訂稿刊行に当たっても、牧先生からは昭和 18 年頃の京都帝国大学法制史料展での記念写真、小田様よりは、御玉稿「叔父小早川欣吾の思い出」及び小早川先生の御照影を戴き、巻頭を飾ることができた。このことは、本当に嬉しく、光栄なことであり、牧先生、小田様の御厚情に対し、謹んで御礼申し上げる次第である。

また、小早川先生については、昨平成 8 年 6 月 25 日に、牧英正先生の御序文を賜わって、竹内英治氏とともに、『小早川欣吾先生東洋法制史論集』（自己出版、平成 8 年 6 月 25 日刊）を自己出版した。併せ、御参照いただければと思う。同書及び本略年譜・著作目録等小早川先生関係の一連の資料を作成し得たのは、ひとえに牧英正先生をはじめ、久保正幡先生、上山安敏先生、小林宏先生、中澤巷一先生の暖かい御指導によるものである。ここに改めて、深甚の謝意を表したい。

本略年譜・著作目録が小早川先生研究の一つのよすがとなれば幸いである。

平成 9（1997）年 10 月 20 日

於安東仮寓

編 者 謹 誌

（註 1）『小早川欣吾先生略年譜・著作目録（四訂稿）』（小田輝子氏「叔父小早川欣吾の思い出」初載、平成 9（1997）年 10 月 20 日刊）

（註 2）初稿、改訂稿及び三訂稿の各はしがきは、『栗生武夫先生・船田享二博士・小早川欣吾先生著作等目録稿』（平成 7（1995）年 8 月 15 日刊）、『栗生武夫先生・船田享二博士・小早川欣吾先生著作等目録稿（改訂版）』（平成 7（1995）年 11 月 1 日刊）及び『栗生武夫先生・船田享二博士・小早川欣吾先生著作目録稿（三訂版）』（平成 8 年 2 月 1 日刊）各はしがきを参照。いずれも「栗生武夫先生略年譜・著作目録（六訂稿）」には再録。

三訂版増補版はしがき（三訂稿）

三訂版刊行後、特に船田享二博士関係を中心に多くの遺漏が判明したので、早く四訂版を作成すべきところであるが、諸般の事情により、これはただちには不可能である。このため、三訂版の正誤補缺を追加することにより、取りあえず、それまでのつなぎとする。敢えて「三訂版増補版」と名付ける所以である。

なお、本目録稿関連作業の一つとして、昨年 6 月、久保正幡先生、牧英正先生、上山安

敏先生、中澤巷一先生、小林宏先生の御指導を受けて、竹内英治氏とともに、『小早川欣吾先生東洋法制史論集』（常盤印書館、平成 8（1996）年 6 月 25 日刊）を刊行した。併せて、御参照戴ければ幸いである。

平成 9（1997）年 1 月 15 日

文永 11 年蒙古勢が占拠せしと

いう麓原山元寇史跡の麓にて

編 者 誌 す

（『栗生武夫先生・船田享二博士・小早川欣吾先生著作等目録稿（三訂版増補版）』（平成 9（1997）年 1 月 15 日刊）

三訂版はしがき（三訂稿）

先に初版（平成 7（1995）年 8 月 15 日刊）、つづいて改訂版（同年 11 月 1 日刊）を出したが、多くの方々から貴重な御教示、御指摘を賜ったことは、大変有難く、まことに感謝にたえないところである。

これらの御教示により、改訂版についても未だ正すべきところが多々あることがわかり、また、本目録稿作成に当たって多大の恩恵を蒙った東京都立中央図書館も、大改装のため、昨年 12 月 1 日より本年 5 月末まで休館となり、これ以上の調査は当面不可能となったので、ここに三訂版を作成しておくこととした。

三訂版においては、本目録稿作成に関し久しく書きためてきたメモを整理し、補篇（註：「栗生武夫先生メモ」）として附した。当初メモ本文と関連原典資料とを一緒にして、別に本目録稿姉妹版としての資料集を出す予定でいたが、様々な意味から余裕がなくなったため、この様な形にせざるを得なかったことをお断りしておく。

試行本 2 冊（初版、改訂版）の段階を経て、今般三訂版を刊行するに当たり、恩師上山安敏先生（現法制史学会代表理事）に序文を懇請いたしたところ、忝くも過分の御玉稿を賜った。有り体にいえば、栗生先生、船田博士及び小早川先生に対する上山先生の御高見を収めさせていただけたことのみが、本目録稿刊行の意義ではないかと思う。先生の御好意に対しては感激この上ない。ここに謹んで深甚の謝意を表する次第である。今後一層の精進を重ねていく所存でいる。

また、中澤巷一先生には学生時代以来今日まで久しく一方ならぬ御指導をいただいているが、近年では、中澤先生と御同門であられるとの御縁で、小林宏先生にも親しくお教えを受けている。小林先生には、本目録稿作成に当たり、各般の御配慮を頂戴したが、特に、小早川先生について、その研究の重要性の御指摘を受け、御懇切な御教示を賜った。加えて、現在小林先生の下で日本法制史を専攻しておられる國學院大學大学院法学研究科の竹

内英治氏には、同先生を通じて、初版以来文献調査、収集等到大変お世話になった。一介の私人にすぎない私にとって、小林先生の御理解と竹内氏の御援助なくば、これだけのものでも作成は不可能であったことを思う時、ただただ感謝の念で一杯である。

また、三訂版においても、引き続き、山形博、橋本昭及び富澤弘親の三氏に格別の御配意を賜った。ここに謹んで厚く御礼申し上げたい。

いつまでも目録稿の「稿」がとれないのは、甚だ遺憾なことであるが、今後とも補正に努めたいと考えているので、よろしく御示教の程お願い申し上げる次第である。

平成 8 (1996) 年 1 月 1 日

御殿場妙法寺に詣で、冬の富士の

高嶺を仰ぎし日

編 者 誌 す

(『栗生武夫先生・船田享二博士・小早川欣吾先生著作等目録稿 (三訂版)』(平成 8 (1996) 年 2 月 1 日刊。上山安敏先生序文あり。)

(「二訂版」は、資料作成はしたものの刊行に至らなかった。)

改訂版はしがき (改訂稿)

先般、初版 (平成 7 (1995) 年 8 月 15 日刊) を出したところ、すぐいろいろと不備な点が目立ち、かつ、二、三の方々より、内容その他に対し、詳細な御批判、御指摘を受けたので、これらの御教示等を踏まえて、改めて作成し直したのが、本改訂版である。これまた極めて不十分なものであるが、御参考に供することができれば幸いである。

以下、私事にわたって恐縮ではあるが、本目録稿作成に当たっての思い出を一つ付け加えさせていただくことを御容赦願いたい。

学生時代、何故か関心あって、栗生武夫先生、小早川欣吾先生のことを調べたことがあり、そのまとめの意味で、恩師に御無理をお願いして、昭和 45 (1970) 年 1 月末のある夜、末川博博士を岡崎東福の川の御尊宅にお訪ねしたことがあった。博士の大学卒業同期に当たる栗生先生のことなど詳しくお聞かせいただいたはずではあるが、その時何をお聞きしたのかは、情けないことに、すっかり忘却の彼方にある。唯一覚えていることは、大正末年 (註: 大正 14 (1925) 年 4 月入学) の入学者選考の教授会で、大石義雄 (弘前高)、小早川欣吾 (山口高) の両氏が入学されるに関し、「大石良雄」、「金吾中納言」のことと絡めて一しきり話題になったということを、博士が愉快に話して下されたことである。

このような意味で、たまたま船田享二博士の目録作成の件を依頼されたのを契機として、栗生先生、小早川先生の御著作目録をも、今回作らせていただいたことは、多年両先生に私淑してきた私にとって、大変幸せなことであった。

この間、多くの方々から貴重な御教示を賜ったことに対し、厚く御礼申し上げる次第である。特に本改訂版作成に当たっては、初版に引き続き、富澤弘親氏に大変お世話になったのはじめ、新たに、山形博氏、橋本昭氏に格別の御配慮を賜ったことを深く感謝する次第である。

今後ともなお補正に努めたいと考えているので、よろしく御叱正賜れば幸甚である。

平成 7 (1995) 年 11 月 1 日

「世紀から置きっ放しにされ」ていたと
いう田園の憂鬱由縁の地」碑の辺にて
編 者 誌 す

『栗生武夫先生・船田享二博士・小早川欣吾先生著作等目録稿 (改訂版)』(平成 7 (1995) 年 11 月 1 日刊)

初版はしがき (初稿)

(「小早川欣吾先生著作等目録稿」『栗生武夫先生・船田享二博士・小早川欣吾先生著作等目録稿』(平成 7 (1995) 年 8 月 1 日刊) 所載)

何事をするについても、書誌等の所謂工具書を整備することが必要であることはいまでもない。法制史又は法史学に関しても、既にかんがりの有用な文献目録等が出されている。ただ、個々人の業績についていうと、様々な理由で個人記念論文集や個人記念誌が刊行されていない方の場合、その業績の全貌をつかむことは、極めて難しい。

ここに取り上げた栗生武夫先生、船田享二博士、小早川欣吾先生の御三方については、いずれも著名な法制史学者又はローマ法学者であるが、この典型的な例に属するのではないかと思料される。栗生、小早川両先生は比較的早く逝かれ、また、船田博士は戦後外地より引き揚げられて一時期代議士になられたこともあり、いずれも直接の後継者といえる方がいないのではないかと思われる。このため、その業績については、主要リスト的なものを除き、全体的な著作目録は存在しないのではないかと考えられる。

平成 3 (1991) 年春頃だったか、知人より、余程「暇人」と思われてか、何に使うのか知らないが、船田享二博士の著作目録を作成して欲しいとの依頼を受けた。その時は、二つ返事で引き受けたものの、着手してみると、いささか煩瑣なため、一寸やそとの時間では到底無理と考えて中断して以来、夏休みも終わりに近づいたのに宿題をしていない小学生の気分を久しく抱き続けてきた。

しかるに、この 3 月来、思わぬことが出来したので、思い立って、この機会に、多年の課題を片付けておくこととした。依頼する人がいる位だから、やはり作成する意義は十分

にあらうと考えたわけである。

そこで、栗生先生、小早川先生、船田博士の順で、取りあえずの目録を作成し、その都度識者の御教示を仰いだが、今般、これらを基に、改めて一本にまとめてみたのが本目録稿である。

この場合、折角作成するのであれば、より有用なものにしたいと考え、十年程前にある先生（註：上山安敏先生）の御還暦記念として刊行された書物の特製私家版に附されたという同先生御著作目録にできるだけ倣うこととした。同目録は、極めて懇切周到に作成されており、大変貴重であると思われたからである。

ただし、本目録稿作成については、御三方それぞれの御業績の検索に便ならしむるようにしたため、三目録間に整合性がとれていない。今取りまとめるに当たっては、当然そのあたりを調整し、少なくとも平仄の一致をみるようにしなければならないが、今はその余裕も気力もない。取りあえず別々のものを綴じ合わせただけにすぎない。

加之、現在与えられている条件下では、遺漏なきを期し難いことはもとより、孫引ただけで直接確認できなかったものも少なくない。これらについては、他日補正に努めたいと考えているので、厳しい御叱正を賜れば幸甚である。

（以下省略箇所あり。）

平成 7（1995）年 8 月 15 日

編 者 誌 す

〔凡 例〕

1 小早川欣吾先生（1900～1944）の略年譜とともに、著作を、1 著書、2 共編書（編纂）、3 論説その他に分けて収載した。七訂稿では、末尾に、（附篇）として小田輝子様「叔父小早川欣吾の思い出」及び「小早川欣吾先生記念メダルによせて」を掲載したが、八訂稿ではいずれも当該 CD（CD 版『小早川欣吾先生東洋法制史論集（増補版）』⇒後掲「凡例 11」参照。）中別ファイルに移していた。九訂稿以降本稿では下記別稿を参照。

・本 HP 別稿：「小早川欣吾先生記念メダルによせて—小田輝子氏「叔父小早川欣吾の思い出」とともに—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/odateruko.pdf>〉

2 論説その他中右端の数字は、著書中の当該数字の著作に所収を示す。ただし、収録に当たり、表題変更、改訂が加えられているものが多々あるが、ここでは一々断っていない。

3 著書、共編書（編纂）、論説その他とも、書評、紹介等のあるものは、当該著作の下に、【書評】として誌した。一部【関連】著作をも誌した。

4 論説その他中、書評、紹介の類は、〈書評〉と誌した。

5 著書にまとめられたもので、現時点で初出不明のもの（例えば、〔附 1〕、〔附 2〕）が存在する。その多くは、新稿と思われるが、判明分については、初出誌名を載せた。

6 参考として、「(4) ア 追悼・回想、同イ 関連及び同ウ 小早川欣吾先生略年譜・著作目録一覧」を載せた。

7 五訂稿までには「小早川欣吾先生照影」、「小早川欣吾先生メモ」及び附録として『法学論叢』（第 1 巻～第 52 巻）、『東亜人文学報』（第 1 巻～第 4 巻）各「巻号数対照表」を収録したが、先の八訂稿では七、六訂稿と同じくいずれも省略し、うち「小早川欣吾先生メモ」は当該 CD 中別ファイルに掲載した。九訂稿以降本稿では、末尾に「(参考) 小早川欣吾先生メモ（第一輯（補訂二稿））」として再掲した。

なお、上記「小早川欣吾先生メモ」（五訂稿分）に誌した項目は、以下のとおりである。

「1 小早川先生との出会い、2 小早川先生追想論稿、3 小早川先生の処女論文、4 日本法制史の講義、5 小早川先生出題「東洋法制史」の試験問題、6 京大法学部各種研究会との関係、7 「社会経済史学会」と小早川先生、8 「憲法史研究会」と小早川先生、9 手塚 豊博士と小早川先生、10 栗生武夫先生と小早川先生、11 小早川文庫のこと、12 『小早川欣吾先生東洋法制史論集』（自己出版、製作常磐印書館、平成 8 年 6 月 25 日刊）編者あとがき、13 『小早川欣吾先生東洋法制史論集』（自己出版、製作常磐印書館、平成 8 年 6 月 25 日刊）刊行の葉」

8 現時点でも遺漏なきを期し難く、本目録から漏れたものもあり、なお調査が不十分である。識者の御示教を得て、更に補正に努めたいと考えている。

9 本十六訂稿までの刊行日時は、次のとおりである。

初稿：平成 7（1995）年 8 月 15 日刊、改訂稿：平成 7（1995）年 11 月 1 日刊、二訂稿：資料として作成しただけで未刊、三訂稿：平成 8（1996）年 2 月 1 日刊、三訂版（増補版）：平成 9（1997）年 1 月 15 日刊）、四訂稿：平成 10（1998）年 2 月 15 日刊、五訂稿：平成 10（1998）年 3 月 20 日刊、六訂稿：平成 15（2003）年 9 月 1 日刊、七訂稿：平成 19（2007）

年 1 月 1 日刊、八訂稿：平成 28（2016）年 8 月 1 日刊、九訂稿：平成 29（2017）年 11 月 18 日刊、十訂稿：令和 3（2021）年 11 月 9 日刊、十一訂稿：令和 4（2022）年 4 月 1 日刊、十二訂稿：令和 4（2022）年 6 月 30 日刊、十三訂稿：令和 5（2023）年 7 月 11 日刊、十四訂稿：令和 6（2024）年 3 月 21 日刊、十五訂稿：令和 7（2025）年 1 月 1 日刊、十六訂稿：令和 7（2025）年 8 月 9 日刊（本稿）

10 以前刊行した『小早川欣吾先生東洋法制史論集』（自己出版、平成 8（1996）年 6 月 25 日刊）には一、二漏らしたものがあつたので、先の六訂稿では補遺の形で取りあえず収録した。ただし、この分の索引は作成していない。上記論集は極少数の限定発行のため再刷が要望されていたが、先般の増補版では当該補遺部分を当該 CD に再録した。なお、「『小早川欣吾先生東洋法制史論集』（自己出版、平成 8（1996）年 6 月 25 日刊）補遺（第一輯）」に掲載した小早川先生の御論稿は、上記「六訂稿はしがき」の（註）に誌したが、下記に再掲しておく。

「（註）「〔附〕『小早川欣吾先生東洋法制史論集』（自己出版、平成 8（1996）年 6 月 25 日刊）補遺（第一輯）」に、補遺として掲載した御論稿は、次のものである。

「第二部 書評

（10）瀧川政次郎氏『律令の研究』（『法学論叢』第 26 巻第 6 号、昭和 6 年 12 月刊）

（11）瀧川政次郎氏『法律史話』（『法律時報』第 5 巻第 1 号、昭和 8 年

刊）

」

10 ウィキペディア「小早川欣吾」及び小早川欣吾先生関係で HP 掲載のものは、次のとおりである。

[\(http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/\)](http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/)

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm>

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayakawa2003a.htm>

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/odateruko.pdf>

http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayakawa_toyohoseishi.pdf

11 CD 版『小早川欣吾先生東洋法制史論集（増補版）』目次は、次のとおりである。

「

平成 28（2016）年 8 月 1 日刊

CD 版 小早川欣吾先生東洋法制史論集（増補版）

併載：小早川欣吾先生略年譜・著作目録（八訂稿）

—ローマ法・法制史学者著作目録選（第十二輯）—

（牧英正先生序文、小田輝子氏回想文掲載）

〔目 次〕

（ファイル 1/5）

CD 版『小早川欣吾先生東洋法制史論集（増補版） 併載：小早川欣吾先生略年譜・著作目録（八訂稿）—ローマ法・法制史学者著作目録選（第十二輯）—』（平成 28（2016）年 8 月 1 日刊）ファイル一覧（当該 CD にはファイル-1/5、2/5、3/5、4/5、5/5 の 5 個ファイルが存在する。）

⇒ファイル 1/5「CD 版『小早川欣吾先生東洋法制史論集（増補版） 併載：小早川欣吾先生略年譜・著作目録（八訂稿）—ローマ法・法制史学者著作目録選（第十二輯）—』（平成 28（2016）年 8 月 1 日刊）ファイル一覧」参照。

※（ファイル 2/5）

CD 版『小早川欣吾先生東洋法制史論集（増補版） 併載：小早川欣吾先生略年譜・著作目録（八訂稿）—ローマ法・法制史学者著作目録選（第十二輯）—』（平成 28（2016）年 8 月 1 日刊）本体

（「はしがき」、「小早川欣吾先生遺影」、「『小早川欣吾先生東洋法制史論集（増補版） 併載：小早川欣吾先生略年譜・著作目録（八訂稿）—ローマ法・法制史学者著作目録選（第十二輯）—』概要」、「附録」、「あとがき」、「奥付」等）

小早川欣吾先生遺影 15

小早川欣吾先生遺影 27

『小早川欣吾先生東洋法制史論集』（平成 8（1996）年 6 月 25 日刊）9

はしがき11

〔目 次〕15

『小早川欣吾先生東洋法制史論集（増補版） 併載：小早川欣吾先生略年譜・著作目録（八訂稿）』概要19

1 はじめに.....21

2 小田輝子「叔父小早川欣吾の思い出」22

3 小早川欣吾先生記念メダルによせて26

4 小早川欣吾先生メモ30

5 『『小早川欣吾先生東洋法制史論集』収録論稿目次その他（改訂稿）』の件.....40

6 今次増補版の件.....50

7 「小早川欣吾先生略年譜・著作目録（八訂稿）」（平成 28 年 1 月 10 日作成）PDF 版 52
（⇒当該 CD 中ファイル 3/5:「小早川欣吾先生略年譜・著作目録（八訂稿）」（平成 28（2016）年 8 月 1 日作成）PDF 版参照。）

8 『小早川欣吾先生東洋法制史論集』（平成 8（1996）年 6 月 25 日刊）PDF 版52
（⇒当該 CD 中ファイル 4/5:『小早川欣吾先生東洋法制史論集』（平成 8（1996）年 6 月 25 日刊）PDF 版参照。）

9 『栗生武夫先生・小早川欣吾先生・戴炎輝博士略年譜・著作目録（新版）〔附〕『小早川欣吾先生東洋法制史論集』（平成 8（1996）年 6 月 25 日刊）補遺（第一輯）—ローマ法・法制史学者著作目録選（第一輯）—』（平成 15（2003）年 9 月 1 日刊）中「小早川欣吾先

生略年譜・著作目録」及び『小早川欣吾先生東洋法制史論集』（平成 8（1996）年 6 月 25 日刊）補遺（第一輯）」PDF 版 ……………52

（⇒当該 CD 中ファイル 5/5: 『栗生武夫先生・小早川欣吾先生・戴炎輝博士略年譜・著作目録（新版）〔附〕『小早川欣吾先生東洋法制史論集』（平成 8（1996）年 6 月 25 日刊）補遺（第一輯）—ローマ法・法制史学者著作目録選（第一輯）—』（平成 15（2003）年 9 月 1 日刊）中「小早川欣吾先生略年譜・著作目録」及び『小早川欣吾先生東洋法制史論集』（平成 8 年 6 月 25 日刊）補遺（第一輯））」PDF 版参照。）

〔附 録〕……………53

1 主要編纂ローマ法・法制史学者著作目録、『日本統治下台湾警察史雜纂』、『鷺巣敦哉著作集』及び『明治警察史雜纂』一覧 ……………53

2 冊子版ローマ法・法制史関係文献目録抄 ……………62

3 元号西暦対照早見表 ……………68

あとがき ……………69

〔人名索引〕……………71～74

奥付 ……………75

〔既輯『ローマ法・法制史学者著作目録選』（第一輯～第十二輯）紹介〕……………77～78

」

1 略年譜

明治 33（1900）年 6 月 16 日 神戸市に生まれる（墓所は彦根市本町 来迎寺）。
大正 11（1922）年 3 月 京都市・立命館中学卒業
同 年 4 月 山口高等学校文科乙類入学
大正 14（1925）年 3 月 7 日 同校卒業
同 年 4 月 京都帝国大学法学部入学
同 年 5 月 病により 1 ヶ年間休学
昭和 4（1929）年 3 月 30 日 京都帝国大学法学部学士試験合格
同年 4 月 11 日 日本法制史研究のため京都帝国大学大学院入学
昭和 6（1931）年 6 月 藤田男爵奨学費（昭和 6 年羅馬法学奨学費）を帝国学士院より
給与される（帝国学士院藤田男爵奨学費羅馬法学奨学費）。
同 年 9 月 18 日 京都帝国大学法学部副手を嘱託される。
昭和 8（1933）年 3 月 22 日 依願副手を辞す。
同 年 3 月 31 日 大学院退学
同 年同日 京都帝国大学法学部講師を嘱託される。（この後「京大事件（瀧
川事件）」発生。）
同 年 11 月 25 日 『日本担保法史序説』刊行（宝文館）
昭和 9（1934）年 3 月 31 日 京都帝国大学助教授（法学部勤務）となる¹。
昭和 11（1936）年 12 月 長島田鶴子様と結婚
昭和 12（1937）年 4 月 同志社大学法学部で講師として日本法制史を担当
（『法律年鑑』（日本評論社）昭和 12 年版、以下 13、14、16、18 年版に同
様の記載あり。）
昭和 15（1940）年 2 月 8 日 京都帝国大学人文科学研究所研究担当
同 年 9 月 5 日 『明治法制史論公法之部上巻』刊行（巖松堂書店）
同 年 12 月 25 日 『明治法制史論公法之部下巻』刊行（巖松堂書店）
昭和 16（1941）年 4 月 京都帝国大学法学部で東洋法制史を講義²

¹ 「教員履歴データベース（京都大学歴代総長・教授・助教授履歴検索システム—対象：1949 年以前の在職者〔旧制〕—）」参照。（平成 29 年 11 月 18 日追加）

〈<https://kensaku.kual.archives.kyoto-u.ac.jp/rireki/>〉

〈<https://kensaku.kual.archives.kyoto-u.ac.jp/rireki/?c=detail&id=000387>〉

² 京都帝国大学法学部における東洋法制史の講義端緒（平成 22 年 9 月 16 日追加）

『京都帝国大学史』（京都帝国大学、昭和 18 年 12 月 20 日刊）によれば、京都帝国大学法学部における東洋法制史の講義は昭和 16 年 4 月から小早川欣吾助教授（当時）が担当することになったというが、『仁井田陸博士追悼論文集第 1 巻 前近代アジアの法と社会』（勁草書房、昭和 42 年 10 月 15 日刊）の同博士略歴（534 頁以下）を見ると、「昭和 15 年 10 月～11 月京都帝国大学法学部において「支那法制史」の特別講義嘱託」とある（『東京大学東洋文化研究所紀要』34〈昭和 39 年 3 月刊〉併照）。これからすると、京大法学部における東洋法制史は、仁井田博士、小早川教授と続くわけであるが、寡聞にして、仁井田博士関係文献がよくわからなかった。しかるに、最近、『京都帝国大学新聞』第 320 号（昭和 15 年

昭和 17 (1942) 年 9 月 1 日	『日本近世民事裁判手続の研究』（日本法理叢書第 18 輯）刊行
昭和 18 (1943) 年 3 月 31 日	京都帝国大学人文科学研究所員（兼任）となる。 研究題目「清朝以後に於ける自治制度研究」
昭和 19 (1944) 年 3 月 20 日	『続明治法制叢考』刊行（山口書店）
同 年 5 月 13 日	京都帝国大学教授・人文科学研究所員
同 年同日	法学部東洋法制史の教授担当
同 年 6 月 15 日	逝去
昭和 20 (1945) 年 11 月 15 日	『明治法制叢考』刊行（京都印書館）
昭和 32 (1957) 年 9 月 30 日	『近世民事訴訟制度の研究』刊行（有斐閣）
昭和 54 (1979) 年 10 月 23 日	『日本担保法史序説』改版復刊（法政大学出版局）
昭和 63 (1988) 年 6 月 20 日	『増補日本近世民事訴訟制度の研究』刊行（名著普及会）
平成元 (1989) 年 7 月 24 日	牧健二博士逝去（1892.11.14～1989.7.24）（平成 30 年 9 月 9 日追加）
平成 8 (1996) 年 6 月 25 日	『小早川欣吾先生東洋法制史論集』刊行（自己出版、製作常磐印書館）
平成 10 (1998) 年 1 月 30 日	前田正治博士逝去（1913～1998、享年 82。）（平成 30 年 9 月 9 日追加）
平成 12 (2000) 年 1 月 25 日	御令室長島田鶴子様御逝去（明治 44（1911）年 9 月 23 日生）
平成 18 (2006) 年 2 月 15 日	小田輝子様から京都大学大学文書館に、「小早川欣吾先生記念メダル」2 個（①第 3 回東西両大学対抗競技優勝メダル（小早川欣吾君、1926 年、京都帝国大学陸上競技部）、②山口高等学校運動会メダル（1924 年））が寄贈される（『京都大学大学文書館だより』第 10 号（平成 18 年 4 月 28 日刊）8 頁〔日誌〕参照。）。 同 年 9 月初旬 小早川欣吾先生末弟小早川巖様御逝去（享年 99）
平成 28 (2016) 年 8 月 1 日	『小早川欣吾先生東洋法制史論集（増補版）併載：小早川欣吾先生略年譜・著作目録（八訂稿）—ローマ法・

10 月 20 日（日）第 1 面（『京都大学新聞復刻版』第 2 巻〈京都大学新聞社、昭和 44 年 7 月 10 日刊〉601 頁）に、「支那法制史 特別講義開講」との記事が掲載されているのを見い出したので、参考までに、採録しておく。なお、同年 11 月にも、その後半部分の講義があったと思われるが、これについては不詳。

「支那法制史 特別講義開講 本年学部規程の一部を改正し、東亜新秩序建設にともなひ東亜認識の深化のため新たに東洋法政史〈マ〉の講座を加へた法学部ではさらに唐令拾遺その他の著書によつて東洋法制史家として知られた東方文化学院研究員仁井田陞博士を招いて刑法および家族法を主とする「支那法制史」の特別講義を明〔十月〕二十一日午後三時および二十二日午前十時の二回にわたつて第十番教室で開催する。」

法制史学者著作目録選（第十二輯）一』刊行（自己出版、製作常磐印書館。ただし CD 版のみ。）

平成 30（2018）年 7 月 8 日（水） 牧英正博士（1924～2018）京都にて逝去（享年 94）。同博士の長逝により学界人で小早川欣吾先生を直接知られる方はおられなくなった。（平成 30 年 9 月 9 日追加）

令和 4（2022）年 7 月 4 日（月） 御令姪小田輝子様御逝去（昭和 2（1927）年生）小田様の遠逝により学者としての小早川欣吾先生を直接知られる方はおられなくなったかと思われる。（令和 7（2025）年 8 月 9 日追加）

（後掲「2（4）参考 ア 追悼・回想」中の牧健二博士、牧英正博士の御論稿及び小早川先生の御令姪小田輝子様の御教示等に基づき、略歴を誌した。）

2 著作目録

(1) 著書

昭和 8 (1933) 年

① 日本担保法史序説 宝文館 (昭和 8 年 11 月 25 日刊)

〈<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/1879640/1/1>〉

【書評】瀧川政次郎 (1897～1992) 「小早川氏の『日本担保法史序説』を読む」 (『法学新報』第 44 巻第 3 号、昭和 9 年 3 月刊)

【書評】石井良助 (1907～1993) 「小早川欣吾著『日本担保法史序説』」 (『法学協会雑誌』第 52 巻第 7 号、昭和 9 年 7 月刊)

昭和 15 (1940) 年

② 明治法制史論 公法之部上巻 巖松堂書店 (昭和 15 年 9 月 5 日刊) (註: 上巻再版は、昭和 18 年 5 月 20 日刊であるが、訂正版ではないようである。)

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1048557/1/1>〉

【書評】牧健二 (1892～1989) 「小早川氏『明治法制史論公法之部上巻』」 (『京都帝国大学新聞』第 320 号 (昭和 15 年 10 月 12 日号)、『京都大学新聞 縮刷版』第 2 巻 (昭和 44 年) 604 頁) (註: 『京都帝国大学新聞』は、後掲紙を含め、初め京都大学新聞社より全 6 巻で刊行されたが、その後、不二出版より、昭和 61 年 7 月 10 日に、第 7～第 9 巻を増補の上『復刻版 京都大学新聞』として復刻されている。)

【書評】金田平一郎 (1900～1949) 「推薦記事 (表題未確認)」『福岡日日新聞』昭和 15 年 11 月 14 日 (未見、金田平一郎著・和仁かや監修『近世民事責任法の研究』(九州大学出版会、平成 30 (2018) 年 9 月 10 日刊) 和仁かや解題 343 頁注 23 に依拠) (平成 30 年 9 月 9 日追加)

③A 明治法制史論 公法之部下巻 巖松堂書店 (昭和 15 年 12 月 25 日刊)

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1052003/1/1>〉

【書評】浅井清 (1895～1979) 「小早川欣吾氏著『明治法制史論』公法之部」 (『法律時報』第 13 巻第 3 号、昭和 16 年 3 月刊)

【推薦】金田平一郎 (1900～1949) 「入門書・「法律 日本法制史」」(瀧川政次郎『日本法制史』、牧健二『日本法制史概論』、小早川欣吾『明治法制史』(ママ、(『明治法制史論 公法之部』) のことか。) の三書を挙げる。)『九州帝国大学新聞』第 252 号 (昭和 17 年 6 月 5 日刊) 1 頁 (平成 30 年 9 月 9 日追加)

昭和 17 (1942) 年

④ 日本近世民事裁判手続の研究 (日本法理叢書第 18 輯) 日本法理研究会 (昭和 17 年 9 月 1 日刊)

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1267831/1/1>〉

昭和 19 (1944) 年

③B 明治法制史論 公法之部 下巻 (訂正再版) 巖松堂書店 (昭和 19 年 5 月 5 日刊) (訂正再版)

〈<https://ndlonline.ndl.go.jp#!/detail/R300000001-I000000912412-00>〉

- ⑤ 続明治法制叢考 山口書店（昭和 19 年 3 月 20 日刊）（註：後掲〔附 2〕参照）

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1276024/1/1>〉

【書評】新刊紹介（『法律時報』第 16 巻第 9 号、昭和 19 年 9 月刊）

（追記：山口書店：『出版文化の源流 京都書肆変遷史 江戸時代（1600 年）～昭和二十年（1945 年）』（京都府書店商業組合、平成 6（1994）年 11 月 3 日刊）407 頁参照）（平成 21 年 6 月 1 日追加））

昭和 20（1945）年

- ⑥ 明治法制叢考 京都印書館（昭和 20 年 11 月 15 日刊）（註：後掲〔附 1〕参照）

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1276020/1/1>〉

（追記：京都印書館：昭和 19 年に立命館大学出版部が中心になって結成された統制会社の一つ。『出版文化の源流 京都書肆変遷史 江戸時代（1600 年）～昭和二十年（1945 年）』（京都府書店商業組合、平成 6（1994）年 11 月 3 日刊）125 頁参照）（平成 21 年 6 月 1 日追加））

昭和 32（1957）年

- ⑦ A 近世民事訴訟制度の研究 有斐閣（昭和 32 年 9 月 30 日刊）（註：序並びに解題・牧健二（1892～1989））

【書評】前田正治（1913～1998）「小早川欣吾氏著『近世民事訴訟制度の研究』」（『法と政治』第 8 巻第 3・4 号、昭和 33 年 12 月 25 日刊）

【書評】平松義郎（1926～1984）「小早川欣吾『近世民事訴訟制度の研究』」（『ジュリスト』臨時増刊昭和 41 年 4 月号『新法学案内』（法制史の道しるべ 203 頁）。後、平松義郎『江戸の罪と罰』（平凡社、昭和 63 年 5 月刊）に収録。）

【書評】北原章男（1939～）「小早川欣吾近世民事訴訟制度の研究」（遠藤元男（1908～1998）編『日本史研究書総覧』（名著出版、昭和 50 年 12 月 27 日刊）所収）

昭和 54（1979）年

- ① B 日本担保法史序説（改版復刊） 法政大学出版局（昭和 54 年 10 月 23 日刊）（註：跋・牧健二（1892～1989））

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/11933226/1/1>〉

昭和 63（1988）年

- ⑦ B 増補近世民事訴訟制度の研究 名著普及会（昭和 63 年 6 月 20 日刊）（註：復刊にあたって・牧英正（1924～2018））

平成 8（1996）年

- ⑧ A 小早川欣吾先生東洋法制史論集 自己出版（製作：常盤印書館、平成 8 年 6 月 25 日刊）（註：小早川欣吾先生の東洋法制史論集上梓によせる序・牧英正。本『目録選 第一輯』に補遺を追加。）

（平成 21（2009）年 5 月 31 日松尾尊兌先生の御紹介で、最後の予備用一冊を京都大学大学文書館に納本す（西山伸先生宛）。）

【参考】趙晶（（当時）中国政法大学法律古籍整理研究所副教授）「論小早川欣吾の東洋法制史研究」『法制史研究』第 34 期（2018（平成 30）年 12 月刊）177～191 頁（令和元

(http://flgj.cupl.edu.cn/local/9/68/58/ECF3D4F427BD6FA6CEECF5B7967E996F37F_DA888.pdf#search=%27%E5%B0%8F%E6%97%A9%E5%B7%9D%E6%AC%A3%E5%90%BE++%E8%B6%99%E6%99%B6%27)

(http://proj1.sinica.edu.tw/~leghist/pages/data_1_12.html)

平成 28 (2016) 年

【参考】趙晶（（当時）中国政法大学法律古籍整理研究所副教授）「論小早川欣吾の東洋法制史研究」『法制史研究』第34期（2018（平成30）年12月刊）177～191頁（令和元年9月6日追加）

(http://flgj.cupl.edu.cn/_local/9/68/58/ECF3D4F427BD6FA6CEECF5B7967_E996F37F_DA888.pdf#search=%27%E5%B0%8F%E6%97%A9%E5%B7%9D%E6%AC%A3%E5%90%BE++%E8%B6%99%E6%99%B6%27)

(http://proj1.sinica.edu.tw/~leghist/pages/data_1_12.html)

(<https://www2.ihp.sinica.edu.tw/publish4.php?TM=5&M=4&C=61>)

(2) 共編書（編纂）

昭和 17（1942）年～昭和 19（1944）年

⑨～⑪ 近世藩法資料集成（京都帝国大学法学部日本法制史研究室編）—京都帝国大学法学部紀要—（昭和 17～19 年）

⑨ 第 1 卷 亀山藩議定書、盛岡藩律 京都帝国大学法学部（昭和 17 年 3 月 25 日刊）

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1454104/1/1>〉

⑩ 第 2 卷 熊本藩御刑法草書附例 京都帝国大学法学部（昭和 18 年 3 月 25 日刊）

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1454117/1/1>〉

⑪ 第 3 卷 松江藩出雲国国令 富山房（昭和 19 年 7 月 15 日刊）

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1270957/1/1>〉

【書評】高柳真三（1902～1990）『法学』第 12 卷第 12 号（昭和 18 年 12 月刊）

【書評】市川秀雄（1901～1964）『法学新報』第 53 卷第 12 号（昭和 18 年 12 月刊）

【新刊紹介】（第 1 卷、第 2 卷：『法律時報』第 15 卷第 10 号、昭和 18 年 10 月刊。第 3 卷：『法律時報』第 16 卷第 10 号、昭和 19 年 10 月刊）

【その他】石井良助（1907～1993）「近世藩法資料集成」（『國史大辞典』第 4 卷（吉川弘文館、昭和 59 年 2 月 1 日刊）615 頁）

【その他】服藤弘司（1921～2005）「近世藩法資料集成・藩法資料集成」（『國史大辞典』第 11 卷（吉川弘文館、平成 2 年 9 月 30 日刊）掲載の石井良助「藩法集」（816～818 頁）中の項目執筆（817、818 頁）。後、加藤友康（1948～）・由井正臣（1933～2008）編『日本史文献解題辞典』（吉川弘文館、平成 12 年 5 月 10 日刊）に再録（240、241 頁）。）

【関連】中澤巷一（1930～）責任編集 京都大学日本法史研究会編『藩法資料集成』（創文社、昭和 55 年刊。〔書評〕鎌田浩（1931～）『法制史研究』31（1981）（昭和 57 年 3 月 30 日刊））

(3) 論説その他

大正 13 (1924) 年

- ・山口県下に於ける考古学調査の一片 山口高等学校『校友会雑誌』第 12 号 (大正 13 年 12 月刊)

昭和 5 (1930) 年

- ・走人に関する阿波藩の法制 (1) 『歴史と地理』第 25 巻第 1 号
- ・走人に関する阿波藩の法制 (2) 完 『歴史と地理』第 25 巻第 2 号
- ・加賀藩の改作法に就て (1) 『歴史と地理』第 26 巻第 4 号
- ・加賀藩の改作法に就て (2) 『歴史と地理』第 26 巻第 5 号
- ・加賀藩の改作法に就て (3) 完 『歴史と地理』第 26 巻第 6 号

昭和 6 (1931) 年

- ・徳川時代の動産質 (1) 『法学論叢』第 25 巻第 1 号 (昭和 6 年 1 月)
- ・徳川時代の動産質 (2) 完 『法学論叢』第 25 巻第 2 号 (昭和 6 年 2 月) (註: 昭和 5 年 8 月 24 日の日付あり。)
- ・(書評) 中田薫教授「徳川時代の不動産担保法続考」(註: 『法学協会雑誌』第 49 巻第 7、8 号 (昭和 6 年)) 『法学論叢』第 26 巻第 4 号 (昭和 6 年 10 月) (中田薫: 1877～1967)
- ・(書評) 瀧川政次郎氏『律令の研究』(註: 刀江書院、昭和 6 年 9 月刊) 『法学論叢』第 26 巻第 6 号 (昭和 6 年 12 月) (瀧川政次郎: 1897～1992) (⑧B)
〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1269674/1/1>〉 (『律令の研究』)

昭和 7 (1932) 年

- ・我国中古に於ける債権の担保 (1) 『法学論叢』第 27 巻第 2 号 (昭和 7 年 2 月)
- ・我国中古に於ける債権の担保 (2) 『法学論叢』第 27 巻第 3 号 (昭和 7 年 3 月)
- ・我国中古に於ける債権の担保 (3) 完 『法学論叢』第 27 巻第 4 号 (昭和 7 年 4 月)
- ・(書評) 楊鴻烈氏 (1903～1977) 著『中国法律発達史』(註: 民国 19 (1930) 年刊) 『法学論叢』第 27 巻第 6 号 (昭和 7 年 6 月) (⑧AB)
(参考)

楊鴻烈: 〈<http://baike.baidu.com/view/791631.htm>〉

『中国法律発達史』(上冊) 〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1441469/1/1>〉

『中国法律発達史』(下冊) 〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1441481/1/1>〉

HP「老読」(2015.12.08) 〈<https://read01.com/y6jz35.html>〉

- ・(民事判例研究) 5 損害賠償請求事件 (昭和 6 年 4 月 24 日大審院第二民事部判決、民事判例集第 10 巻第 10 号 685 頁以下) 『立命館学叢』第 3 巻第 10 号 (昭和 7 年 6 月 1 日刊) 83～88 頁 (初見は、下記 HP「立命館法学総目次・総索引」による。ただし、同 HP では、「和文紀要執筆者名索引」には「小早川欣吾」で存在するが、「和文紀要号別目次」では「民事判例研究 末川博 79」に包含されている。
〈<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/law/lex/somokuji.htm#somokuji>〉。なお、「明治・大正・昭和前期 雑誌記事索引データベース」(皓星社)には収録あり。)

- ・西ゴート王アラリック二世の發布したる羅馬人法（1） 『歴史と地理』第29巻第6号（昭和7年。註：「藤田男爵奨学費 昭和6年羅馬法学奨学費」受費。藤田平太郎：1869～1940。アラリック二世：？～507）
- ・西ゴート王アラリック二世の發布したる羅馬人法（2） 『歴史と地理』第30巻第1号（昭和7年）
- ・西ゴート王アラリック二世の發布したる羅馬人法（3）完 『歴史と地理』第30巻第2号（昭和7年）
- ・（書評）程樹徳氏編『中国法制史』（註：民国20（1931）年刊） 『法学論叢』第28巻第5号（昭和7年11月）（程樹徳：1876～1944）（⑧AB）
- ・我国中世に於ける動産質（1） 『社会経済史学』第2巻第9号（昭和7年12月）（註：同誌同号99頁に、昭和7年10月27日京大楽友会館での社会経済史学会第2回大会で「中世に於ける動産質の設定」を発表とある。）

昭和8（1933）年

- ・我国中世に於ける動産質（2）完 『社会経済史学』第2巻第10号（昭和8年1月）
- ・（書評）瀧川政次郎氏著『法律史話』（註：巖松堂書店、昭和7年刊） 『法律時報』第5巻第1号（昭和8年1月）（瀧川政次郎：1897～1992）（⑧B）
- ・（書評）細川亀市氏著『日本中世寺院法総論』（註：東京・大岡山書店、昭和8年2月刊） 『法学論叢』第29巻第4号（昭和8年4月）（細川亀市：1905～1962）
- ・天明7年播州相生村の家潰騒動 『経済史研究』第10巻第1号（通巻第45号、昭和8年7月）（天明7年：1787年）

昭和9（1934）年

- ・（書評）仁井田陞氏著『唐令拾遺』（註：東方文化学院東京研究所、昭和8年刊） 『法学論叢』第30巻第1号（昭和9年1月）（仁井田陞：1904～1966）（⑧AB）
- ・明治前期の担保法—現行民法発布以前の担保の基盤— 『法学論叢』第30巻第3号（3月）（⑤）
- ・著欽政 『法学新報』第44巻第8号（昭和9年8月）
- ・以酤庵輪番考 『法学論叢』第31巻第3号（註：末廣（重雄、1874～1946）博士還暦祝賀記念号）（昭和9年9月）
- ・近世の裁判組織と審級及管轄に関する若干の考察（1） 『法学論叢』第31巻第6号（昭和9年12月）

昭和10（1935）年

- ・近世の裁判組織と審級及管轄に関する若干の考察（2） 『法学論叢』第32巻第1号（昭和10年1月）
- ・近世の裁判組織と審級及管轄に関する若干の考察（3）完 『法学論叢』第32巻第4号（昭和10年4月）
- ・再び近世訴訟に於ける管轄及審級について（1） 『法学論叢』第33巻第2号（昭和10年8月）
- ・再び近世訴訟に於ける管轄及審級について（2）完 『法学論叢』第33巻第4号（昭和10年10月）

昭和 11 (1936) 年

- ・所謂「支配違え懸る出入」に就て (1) 『法学論叢』第 34 卷第 3 号 (昭和 11 年 3 月) (⑦B)
- ・所謂「支配違え懸る出入」に就て (2) 完 『法学論叢』第 34 卷第 5 号 (昭和 11 年 5 月) (⑦B)
- ・(書評) 細川亀市氏『日本固有法研究』(註: 東京・南郊社、昭和 11 年刊) 『法学論叢』第 35 卷第 1 号 (昭和 11 年 7 月) (細川亀市: 1905~1962)
- ・近世初頭上方に於ける刑罰の態様と執行について一板倉伊賀守・同周防守籠屋証文の検討一 『法学論叢』第 35 卷第 5 号 (昭和 11 年 11 月)

【関連】猪熊兼繁 (1902~1979) 「板倉籠屋証文 (1)、(2) 完」(『法学論叢』第 67 卷第 2、3 号 (昭和 35 年 5、6 月))。【書評】牧健二 (1892~1989) 『法制史研究』12 (1961)、昭和 37 年 3 月 30 日刊)

- ・(書評) カレントブックス『吉田松陰全集 (岩波版)』(註: 全 10 巻、岩波書店、昭和 9~11 年刊) 『帝国大学新聞』第 652 号 (昭和 11 年 12 月 14 日号) (『帝国大学新聞 複製版』(不二出版、昭和 59 年刊) 第 10 巻 510 頁) (吉田松陰: 1830~1859)

昭和 12 (1937) 年

- ・維新以前に於ける議会制度の移入について 『法学論叢』第 36 卷第 1 号 (昭和 12 年 1 月) (⑥)
 - ・(書評) 今中次磨教授著『日本政治史大綱』(註: 東京・南郊社、昭和 11 年 10 月刊) 『法学論叢』第 36 卷第 2 号 (昭和 12 年 2 月) (今中次磨: 1893~1980)
 - ・満洲建設上の二、三の問題に就て 『昭和十一年度学徒至誠会派遣団報 満洲篇・研究報告』(財学徒至誠会、昭和 12 年 2 月 28 日刊) 2~23 頁 (調査研究、「昭和十一年・九・五」執筆とある。)(平成 26 年 5 月 20 日追加)
- 天皇機関説について 『昭和十一年度学徒至誠会派遣団報 満洲篇・団行動 講演集』(財学徒至誠会、昭和 12 年 5 月 6 日刊) (講演集 (船中)) 45~48 頁 (平成 26 年 5 月 20 日追加)
- ・「論所」に関する訴訟手続について一近世に於ける民事訴訟の一類型として観たる一 (1) 『法学論叢』第 37 卷第 1 号 (昭和 12 年 7 月) (⑦AB)
 - ・「論所」に関する訴訟手続について一近世に於ける民事訴訟の一類型として観たる一 (2) 完 『法学論叢』第 37 卷第 4 号 (昭和 12 年 10 月) (⑦AB)
 - ・(書評) 仁井田陞氏著『唐宋法律文書の研究』(註: 東方文化学院東京研究所、昭和 12 年 3 月刊) 『法学論叢』第 37 卷第 5 号 (昭和 12 年 11 月) (仁井田陞: 1904~1966) (⑧AB)

昭和 13 (1938) 年

- ・我国近世の民事訴訟手続に就て (1) 『法学論叢』第 38 卷第 2 号 (昭和 13 年 2 月) (⑦AB)
- ・我国近世の民事訴訟手続に就て (2) 『法学論叢』第 38 卷第 3 号 (昭和 13 年 3 月) (⑦AB)
- ・我国近世の民事訴訟手続に就て (3) 『法学論叢』第 38 卷第 4 号 (昭和 13 年 4 月)

(⑦A B)

・(書評) 尾佐竹博士の近業『明治政治史点描』(註: 東京・育成社、昭和 13 年刊)と『日本憲法制定史要』(東京・育成社、昭和 13 年 2 月刊) 『帝国大学新聞』第 715 号(昭和 13 年 4 月 11 日号)(前掲『帝国大学新聞 複製版』第 12 巻 158 頁)(尾佐竹猛: 1880～1946)

・(書評) 西村精一学士著『五人組制度新論』(註: 岩波書店、昭和 13 年 3 月 5 日刊) 『法学論叢』第 38 巻第 6 号(昭和 13 年 6 月)(西村精一: 1906～1981)

・我国近世の民事訴訟手続に就て(4)完 『法学論叢』第 39 巻第 1 号(昭和 13 年 7 月)(⑦A B)

・(書評) 石井良助氏編『近世法制史料叢書、第一』(弘文堂書房、昭和 13 年刊) 『法学論叢』第 39 巻第 3 号(昭和 13 年 9 月)(石井良助: 1907～1993)

・近世民事裁判に於ける二三の問題(1) 『法学論叢』第 39 巻第 4 号(昭和 13 年 10 月)(⑦A B)

・近世民事裁判に於ける二三の問題(2)完 『法学論叢』第 39 巻第 5 号(昭和 13 年 11 月)(⑦A B)

昭和 14 (1939) 年

・W・シュミット『原始文化に於ける所有』 『法学論叢』第 40 巻第 1 号(昭和 14 年 1 月)

・V・A・リヤザノフスキー(1884～1968)『元朝に於ける蒙古法及支那法』 『法学論叢』第 40 巻第 3 号(昭和 14 年 3 月)(⑧AB)

・近世裁判に於ける「引合」及訴訟当事者(1) 『法学論叢』第 40 巻第 4 号(昭和 14 年 4 月)(⑦A B)

・近世裁判に於ける「引合」及訴訟当事者(2)完 『法学論叢』第 40 巻第 5 号(昭和 14 年 5 月)(⑦A B)

・H・シュペハス『地政治学的方法に依る編史』其他 『法学論叢』第 40 巻第 6 号(昭和 14 年 6 月)

・(書評) 尾佐竹博士『日本憲政史大綱』上・下(註: 日本評論社、昭和 13 年 11 月刊) 『法学論叢』第 41 巻第 3 号(昭和 14 年 9 月)(尾佐竹猛: 1880～1946)

・武家法 『新講大日本史』第 10 巻「日本法制史」(雄山閣、9 月 10 日刊。昭和 18 年 3 月 25 日再版刊)

【書評】石井良助他「昭和十四年の法制史学界」(『法学協会雑誌』第 58 巻第 1 号、昭和 15 年 1 月)(石井良助: 1907～1993)

・(書評) 細川教授『日本固有法の展開』(註: 巖松堂書店、昭和 14 年刊) 『法学論叢』第 41 巻第 4 号(昭和 14 年 10 月)(細川亀市: 1905～1962)

・唐朝司法制度(1) 『法学論叢』第 41 巻第 5 号(昭和 14 年 11 月)(⑧AB)

・(書評) 根本誠『上代支那法制の研究刑事篇』(註: 有斐閣、昭和 14 年刊) 『法学論叢』第 41 巻第 5 号(昭和 14 年 11 月)(⑧AB)(根本 誠: 1906～1976。根本上記書が大空社より『アジア学叢書』第 62 巻として復刻された(平成 11 年 2 月刊)のに際し、本書評が参考資料として付されている。)

(<http://www.ozorasha.co.jp/ajia008.html>)

- ・唐朝司法制度 (2) 『法学論叢』第 41 巻第 6 号 (昭和 14 年 12 月) (⑧AB)
- ・(書評) 浅井清『明治維新と郡県思想』(註: 巖松堂書店、昭和 14 年 11 月刊) 『法学論叢』第 41 巻第 6 号 (昭和 14 年 12 月) (浅井清: 1895~1976)

昭和 15 (1940) 年

- ・唐朝司法制度 (3) 『法学論叢』第 42 巻第 1 号 (昭和 15 年 1 月) (⑧AB)
- ・唐朝司法制度 (4) 完 『法学論叢』第 42 巻第 2 号 (昭和 15 年 2 月) (⑧AB)
- ・(書評) 清水伸著『独逸に於ける伊藤博文の憲法取調と日本憲法』(註: 岩波書店、昭和 14 年 10 月 14 日刊) 『法学論叢』第 42 巻第 2 号 (昭和 15 年 2 月) (清水伸: 1906~1987、伊藤博文: 1841~1909)
- ・五代及び宋に於ける司法制度 (1) 『法学論叢』第 42 巻第 4 号 (昭和 15 年 4 月) (⑧AB)
- ・(書評) 牧教授の近業『日本国体の理論』(註: 有斐閣、昭和 15 年刊) を読む 『京都帝国大学新聞』第 313 号 (昭和 15 年 5 月 20 日号) (前掲『京都大学新聞 縮刷版』第 2 巻 574 頁) (牧健二: 1892~1989)
- ・五代及び宋に於ける司法制度 (2) 『法学論叢』第 42 巻第 6 号 (昭和 15 年 6 月) (⑧AB)
- ・五代及び宋に於ける司法制度 (3) 『法学論叢』第 43 巻第 4 号 (昭和 15 年 10 月) (⑧AB)

近世に於ける身代限り及分散について 『法学論叢』第 43 巻第 5 号 (紀元二千六百年記念論文集) (昭和 15 年 11 月) (⑦AB)

- ・(書評) 清水伸『帝国憲法制定会議』(岩波書店、昭和 15 年 11 月 5 日刊) 『法学論叢』第 43 巻第 6 号 (昭和 15 年 12 月) (清水伸: 1906~1987)

昭和 16 (1941) 年

- ・近世に於ける身代限り及分散続考 (1) 『法学論叢』第 44 巻第 1 号 (昭和 16 年 1 月) (⑦AB)
- ・近世に於ける身代限り及分散続考 (2) 『法学論叢』第 44 巻第 2 号 (昭和 16 年 2 月) (⑦AB)
- ・五代及び宋に於ける司法制度 (4) (未完?) 『法学論叢』第 44 巻第 3 号 (昭和 16 年 3 月) (⑧AB)
- ・(書評) 和田清(編)『支那地方自治発達史』(註: 中華民國法制研究会、昭和 14 年 12 月 16 日刊。戦後、和田清編著『中国地方自治発達史』(汲古書院、昭和 50 年 5 月刊)として復刻。) 『法学論叢』第 44 巻第 3 号 (昭和 16 年 3 月) (和田清: 1890~1963) (⑧AB)
- ・近世に於ける身代限り及分散続考 (3) 完 『法学論叢』第 44 巻第 4 号 (昭和 16 年 4 月) (⑦AB)
- ・(書評) H・Hリューテ『日本及び支那の立法に及ぼせる欧州法の影響』 『法学論叢』第 44 巻第 6 号 (昭和 16 年 6 月)
- ・近世民事裁判の概念と特質 (1) 『法学論叢』第 45 巻第 1 号 (昭和 16 年 7 月) (⑦

AB)

・近世民事裁判の概念と特質 (2) 『法学論叢』第 45 巻第 3 号 (昭和 16 年 9 月) (⑦AB)

・清時代に於ける地方自治団体の牌の形式について—特に保甲制度を中心として— 『東亜人文学報』 (註: 京都帝国大学人文科学研究所) 第 1 巻第 2 号 (昭和 16 年 9 月) (⑧AB)

・(書評) 小山松吉著『名判官物語』 (註: 中央公論社、昭和 16 年 5 月刊) 『法学論叢』第 45 巻第 4 号 (昭和 16 年 10 月) (小山松吉: 1869~1948)

・近世民事裁判の概念と特質 (3) (未完?) 『法学論叢』第 45 巻第 5 号 (昭和 16 年 11 月) (⑦AB)

昭和 17 (1942) 年

・近世民事裁判に於ける身分的性格と等級性について (1) 『法学論叢』第 46 巻第 1 号 (昭和 17 年 1 月) (⑦AB)

・(書評) 鈴木安蔵『憲法制定とロエスレル』 (註: 東洋経済新報社、昭和 17 年 1 月刊) 『法学論叢』第 46 巻第 2 号 (昭和 17 年 2 月) (鈴木安蔵: 1904~1983、ロエスレル: 1834~1894)

・近世民事裁判に於ける身分的性格と等級性について (2) (未完?) 『法学論叢』第 46 巻第 3 号 (昭和 17 年 3 月) (⑦AB)

・近世民事裁判の概念と其の特質 『日本諸学振興委員会研究報告 第十四篇 (法学)』 (昭和 17 年 3 月、教学局) 53~64 頁 (凡例に、「本報告は昭和十六年十一月二十日より二十二日迄開催されたる日本諸学振興委員会第二回法学会並に同公開講演会に於ける調査発表及び講演の速記を印刷せるものである。昭和十七年三月 教学局」とある。)(平成 26 年 5 月 20 日追加)

・支那法に於ける族刑と縁坐刑との関係について 『法学論叢』第 46 巻第 6 号 (註: 宮本 (英脩、1882~1944) 博士還暦祝賀記念号) (昭和 17 年 6 月) (⑧AB)

・近世民事裁判上の一実記について 『法商研究』 (註: 日本大学大阪専門学校) 第 2 巻第 1 号 (有斐閣、昭和 17 年 7 月 31 日)

・近世民事裁判に於ける「公事」—特に本公事について— (1) 『法学論叢』第 47 巻第 2 号 (昭和 17 年 8 月) (⑦AB)

・近世民事裁判に於ける「公事」—特に本公事について— (2) 『法学論叢』第 47 巻第 3 号 (昭和 17 年 9 月) (⑦AB)

・(書評) 仁井田陸教授『支那身分法史』 (註: 東方文化学院、昭和 17 年 1 月) 『法学論叢』第 47 巻第 3 号 (昭和 17 年 9 月) (仁井田陸: 1904~1966) (⑧AB)

近世民事裁判に於ける「公事」—特に本公事について— (3) 完 『法学論叢』第 47 巻第 6 号 (昭和 17 年 12 月) (⑦AB)

昭和 18 (1943) 年

・沖之島地境論 『法学論叢』第 48 巻第 1 号 (昭和 18 年 1 月)

・清時代に於ける保甲冊の形式と其の編制について 『東亜人文学報』第 3 巻第 1 号 (昭和 18 年 3 月) (⑧AB)

・近世民事裁判の特質 『法商研究』（註：大阪専門学校）第2巻第4号（有斐閣、昭和18年3月31日、終刊）

・[帝国学士院] 研究報告（昭和十七年度） 昭和18年8月 帝国学士院 第一部 七 近世民事裁判の研究 研究者 小早川欣吾 （推薦者 羽田亨（1882～1955））（平成26年5月20日追加）

・「死後讓」考（1） 『法学論叢』第49巻第5号（昭和18年11月）

・（書評）星野通氏著『明治民法編纂史研究』（註：ダイヤモンド社、昭和18年9月刊）
『京都帝国大学新聞』375号（昭和18年12月20日号）（前掲『京都大学新聞 縮刷版』第2巻820頁）（星野通：1900～1976）

昭和19（1944）年

・「死後讓」考（2） 『法学論叢』第50巻第1号（昭和19年1月）

・「死後讓」考（3）完 『法学論叢』第50巻第3号（昭和19年3月）

（昭和19（1944）年5月13日 京都帝国大学教授・人文科学研究所員）

（同 年同 日 法学部東洋法制史の教授担当）

（同 年6月15日 逝去）

・辞典執筆 67 項目 山口経済専門学校東亜経済研究会編『支那社会経済大辞典』第1巻（アカ、奥付では「全八巻の内 第一巻」とある。大雅堂、昭和19（1944）年12月15日刊。『支那社会経済大辞典』は終戦により第1巻のみ刊行されて中断。）

（本辞典及び小早川先生執筆項目については、令和5（2023）年7月7日西英昭先生の御示教に与った。厚く御礼申し上げます。）

〈<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/1275895/1/1>〉 （令和5（2023）年7月11日追加）

・その後西英昭先生「瀧川政次郎の東洋法制史学に関する中間報告」『法政研究』第91巻第3号（令和6（2024）年12月刊）が出され、本「略年譜・著作目録」（十三訂稿）で暫定的に追加した小早川欣吾先生の山口経済専門学校東亜経済研究会編『支那社会経済大辞典』関係分も記載（240～242 頁及び註（19））されているので御参照願います。

（令和7（2025）年1月1日追加）

（参考）

・「敬告」（『支那社会経済大辞典』刊行の件）『山口商学雑誌』第12巻第6号（昭和16（1941）年12月26日刊）78頁（51 齣）

〈<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/3565315/1/1>〉

・木部和昭「山口高等商業学校の東アジア教育・研究と東亜経済研究所」『東亜経済研究』第67巻第2号平成21（2009）年1月31日刊47～61 頁中59 頁

〈<https://researchmap.jp/read0185187>〉

〈<https://core.ac.uk/download/35425565.pdf>〉

〈<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/3565315/1/51>〉

(執筆項目)

(註記) 項目の後に(姓・姓)とあるのはその項目が「共著」であることを示している。ただ、これは、正式には「共著」ではなく、「凡例」中の「解説の程度・形式及び方法 九」(4 頁)にあるとおり、被った項目を編纂員が適宜調整したもののようである。何もついていないものは小早川先生単著。なお、執筆者(姓名等)表示については「凡例」中の「執筆者の表示」(4 頁)によれば最終第 8 巻にまとめて表示の予定であったようで、第 1 巻では原則姓のみしか記載されていない。

(67 項目) (共著者推定: 青木⇒不明、白尾⇒不明、曾我部⇒曾我部静雄、鈴木⇒鈴木俊か?、仁井田⇒仁井田陸)

「亞」、「哀矜(アイキン)」、「惡逆」、「惡疾」、「惡少」、「斡脱(アツダツ)」、「(小早川・青木)」、「案驗」、「按察使」、「案租」、「案沓(アントウ)」、「案問(アンモン)」、「違礙(イガイ)」、「遺囑」、「已成盜(イセイトウ)」、「一吏」、「逸」、「意定代理」、「以盜論」、「違戾(イレイ)」、「廕(イン)」(白尾・小早川)、「淫佚(インイツ)」、「員(イン)外郎(ガイロウ)」、「蔭贖(インショク)」、「衛禁」、「營寨」、「驛傳」、「(曾我部・小早川)」、「淹延(エンエン)」、「閹割火者(エンカツカシャ)」(小早川・鈴木)、「掩捕(エンボ)」、「枷(カ)」、「嫁(カ)」、「醢(カイ)」、「階銜(カイカン)」、「械擊(カイゲキ)」、「會赦猶流(カイシャユウリュウ)」、「會集」、「解審」、「戒石銘」、「快便」、「恢辦(カイベン)」、「會問」、「解由(カイユ)」(小早川・鈴木)、「科役(カエキ)」、「課役(カエキ)」、「格殺勿論(カクサツロンズルナカレ)」(仁井田・小早川)、「隔問」、「訛言(カゲン)」、「下殤(カショウ)」、「加杖」、「家生軀口(カセイクコウ)」、「榎楚(カソ)」、「窩藏(カゾウ)」、「瞎目(カツモク)」、「課程」、「家督」、「科敷(カフ)」、「加服」、「勘會(カンカイ)」、「官監戸」、「完議」、「官禁」、「漢刑」、「官刑」、「檻車(カンシャ)」、「官稱」、「園扉(カンピ)」、「贗濫(ガンラン)」(67 項目)

昭和 20 (1945) 年

・明律令の我近世法に及ぼせる影響 『東亜人文学報』第 4 巻第 2 号(昭和 20 年 3 月 30 日)

【参考】小林宏(1931～)「徳川吉宗と中国法」(『創文』第 299 号、平成元年 5 月)

〔附 1〕

⑥ 『明治法制叢考』(京都印書館、昭和 20 (1945) 年 11 月 15 日刊) 所収論説

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1276020/1/1>〉

- 1 維新以前に於ける議会制度の移入(初出:『法学論叢』第 36 巻第 1 号(昭和 12 年 1 月))
- 2 サトウ(註: 1843～1929)「英国策論」の意義について
- 3 藩議会の設立と其の消長
- 4 新たな一私擬憲法案
- 5 目安箱に投入されたる二三の建白書
- 6 明治初頭に於ける二三の藩の刑法典について

〔附 2〕

⑤ 『続明治法制叢考』（山口書店、昭和 19（1944）年 3 月 20 日刊）所収論説

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1276024/1/1>〉

- 1 新律綱領及び改定律例の編纂過程と其の判決に就いて
- 2 片山國嘉博士（註：1855～1931）の「刑法改正私考」（註：日本犯罪学会、昭和 8 年 10 月刊）
- 3 旧民法典編纂過程と旧民法典に対する論争について
- 4 明治前期の担保法の基盤（初出：『法学論叢』第 30 卷第 3 号（昭和 9 年 3 月））

(4) 参考

ア 追悼・回想

昭和 19 (1944) 年

・牧健二 (1892～1989) 「小早川教授の逝去」 『法学論叢』第 50 巻第 4 号 (昭和 19 年 4 月 1 日)

昭和 32 (1957) 年

・牧健二「小早川欣吾著『近世民事訴訟制度の研究』序並びに解題」 同書 (昭和 32 年 9 月 30 日刊) 所収

昭和 51 (1976) 年

・牧健二「『瀧川事件及び法学部存続当時の真相』補筆」 『有信会誌』 (註: 京都大学法学部同窓会誌) 第 20 号 (昭和 51 年 10 月 1 日刊) (註: 牧健二「瀧川事件及び法学部存続当時の真相」は、『有信会誌』第 19 号 (昭和 50 年刊) 所収。)

昭和 54 (1979) 年

・牧健二「小早川欣吾著『日本担保法史序説』新版跋」 同書 (昭和 54 年 10 月 23 日刊) 所収

昭和 63 (1988) 年

・牧英正 (1924～2018) 「小早川欣吾著『増補近世民事訴訟制度の研究』復刊にあたって」 同書 (昭和 63 年 6 月 20 日刊) 所収

平成 8 (1996) 年

・牧英正「小早川欣吾先生の東洋法制史論集上梓によせる序」 『小早川欣吾先生東洋法制史論集』 (平成 8 (1996) 年 6 月 25 日刊) 所収 (『CD 版: 小早川欣吾先生東洋法制史論集 (増補版) 併載: 小早川欣吾先生略年譜・著作目録 (八訂稿) —ローマ法・法制史学者著作目録選 (第十二輯) —』 (平成 28 (2016) 年 8 月 1 日刊、CD 版) にも掲載。)

平成 9 (1997) 年

・小田輝子 (1927～2022.7.4) 「叔父小早川欣吾の思い出」 『小早川欣吾先生略年譜・著作目録 (四訂稿) 』 (平成 9 年 10 月 20 日刊) 所収 (註: 同 (五訂稿、平成 10 年 3 月 20 日刊) に再録。更に、加筆の上、同 (六訂稿、平成 10 (1998) 年 3 月 20 日刊)、同 (七訂稿、平成 19 (2007) 年 1 月 1 日刊)、『CD 版: 小早川欣吾先生東洋法制史論集 (増補版) 併載: 小早川欣吾先生略年譜・著作目録 (八訂稿) —ローマ法・法制史学者著作目録選 (第十二輯) —』 (平成 28 (2016) 年 8 月 1 日刊、CD 版) にも掲載。)

平成 18 (2006) 年

(参考) 平成 18 (2006) 年 2 月 15 日: 小田輝子様から京都大学大学文書館に、「小早川欣吾先生記念メダル」2 個 (①第 3 回東西両大学対抗競技優勝メダル (小早川欣吾君、1926 年、京都帝国大学陸上競技部)、②山口高等学校運動会メダル (1924 年)) が寄贈される (『京都大学大学文書館だより』第 10 号 (平成 18 年 4 月 28 日刊) 8 頁 [日誌] 参照。)

平成 19 (2007) 年

・吉原丈司「小早川欣吾先生記念メダルによせて—小田輝子氏「叔父小早川欣吾の思い出」

とともに一』『法史学研究会会報』第 11 号（明治大学法学部法史学研究室内法史学研究会、平成 19 年 2 月 25 日刊）所収（平成 19 年 8 月 4 日追加）

〈<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~tkomuro/legalhistory02.htm>〉

平成 21（2009）年

・西山伸（1963～）「滝川事件について一牧健二氏・大隅健一郎氏聞き取り一」『京都大学大学文書館研究紀要』第 7 号（平成 21 年 2 月 27 日刊）55～84 頁（小早川先生：65 頁。牧健二：1892～1989、大隅健一郎：1904～1998）（平成 21 年 5 月 10 日追加）

〈<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/70919>〉（アドレスのみ：平成 25 年 2 月 14 日追加）

イ 関連

昭和 4（1929）年

・『京都帝国大学一覧』（昭和 4 年度～） 京都帝国大学

昭和 8（1933）年

・住谷悦治（1895～1987）「京大法学部今昔物語伝統的自由主義の行方」『中央公論』第 48 年第 7 号（昭和 8 年 7 月号）

〈https://search.showakan.go.jp/search/magazine/detail.php?material_cord=100009695〉

・押川和一郎（筆名？）「戦の跡を顧みて一京大法学部の自由主義の聖域一」『法の研究』（改造社）第 1 巻第 1 号（創刊号）（昭和 8 年 11 月）

昭和 13（1938）年

・林純平『関西学界展望』 文友堂書店（昭和 13 年 6 月 16 日刊）

〈<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/1440522>〉

（参考）小野博司「『関西学界展望』の著者は誰ぞ」『大警視だより』続刊第 19 号（令和 6（2024）年 7 月 1 日刊）53～54 頁参照（令和 7（2025）年 1 月 1 日追加）

昭和 17（1942）年

・石井良助（1907～1993）「日本法制史研究の発達」『東京帝国大学学術大観（法学部・経済学部）』（東京帝国大学、昭和 17 年 4 月 13 日刊）

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1879592/1/1>〉

昭和 18（1943）年

・『京都帝国大学史』 京都帝国大学（昭和 18 年 12 月刊）

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1460809/1/1>〉

昭和 25（1950）年

・前田正治（1913～1998）編著『日本近世村法の研究』 有斐閣（昭和 25 年 11 月刊）

昭和 37（1962）年

・『鴻峯四十年一旧制山口高等学校沿革史一』 旧制山口高等学校同窓会（昭和 37 年 1 月 30 日刊）（262 頁以下、422 頁以下）

・『日本学士院八十年史』（本編、資料編 2） 日本学士院（本編：昭和 37 年 3 月 21 日

刊、資料編 2: 昭和 37 年 3 月 31 日刊) (同書資料編 2・464 頁)

昭和 41 (1966) 年

・伊東祐正「追憶—スキー部のことなど—」『同好』1966 (京都大学経済学部同窓会会報 (当時)、同好クラブ刊) (現在の京都大学志賀高原ヒュッテ建設 (昭和 13 年京大スキー部関係者が建設、平成 21 年に京大に移管) に当たっての小早川先生の貢献に言及) (平成 25 年 12 月 8 日追加)

〈<http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/ronsou/10005154.pdf>〉

〈http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/profile/intro/president25/speech/090904_1.htm〉

昭和 42 (1967) 年

『京都大学七十年史』 京都大学 (昭和 42 年 11 月 3 日刊) (平成 20 年 3 月 27 日補正)

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/9581721>〉

昭和 43 (1968) 年

・『山口高等学校史』 (旧制高校叢書) 校史出版 (昭和 43 年 4 月 1 日刊) 123、126、226、242 頁 (平成 19 年 12 月 21 日補正)

昭和 47 (1972) 年

・浅井清信 (1902～1992) 「民主主義のシンボル・末川先生」『末川博随想全集 第 5 巻』月報 (栗田出版会、昭和 47 年 7 月 3 日刊) 2、32 頁 (平成 24 年 6 月 6 日追加)

昭和 48 (1973) 年

・手塚豊 (1911～1990) 「私の古典小早川欣吾著『明治法制史論・公法之部上下』」 『三田評論』第 723 号 (昭和 48 年 2 月 1 日)

昭和 53 (1978) 年

・『小早川文庫目録』 京都大学法学部 (昭和 53 年 3 月 31 日刊)

〈<http://ci.nii.ac.jp/ncid/BN01098640>〉

〈<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/lawlib/collections.html>〉

昭和 62 (1987) 年

・岩野英夫 (1944～) 「わが国における法史学の歩み (1873-1945) —法制史関連科目担任者の変遷—」 『同志社法学』第 39 巻第 1・2 号 (第 200 号記念論集 I、昭和 62 年 7 月 31 日刊) 〈<http://ci.nii.ac.jp/naid/110000588862>〉

平成 3 (1991) 年

・大橋智之輔 (1928～) 他編著『昭和精神史の一断面—法哲学者加古祐二郎 (註: 1905-1937) とその日記—』 法政大学出版局 (平成 3 年 3 月 31 日刊)

・服藤弘司 (1921～2005) 「法制史学」 『國史大辞典』第 12 巻 吉川弘文館 (平成 3 年 6 月 30 日刊、620～622 頁)

平成 8 (1996) 年

・上山安敏 (1925～2021) 『栗生武夫先生 (註: 1890～1942) ・船田享二博士 (註: 1898～1970) ・小早川欣吾先生著作等目録稿 (三訂版)』序文 自己出版 (平成 8 年 2 月 1 日刊) (後、『栗生武夫先生略年譜・著作目録 (四訂稿)』 (自己出版、平成 10 年 2 月 15 日刊) に再録。)

平成 9 (1997) 年

- ・兼清正徳 (1914～2018、元山口県文書館長) 『末川博 学問と人生』 京都・雄渾社 (平成 9 年 2 月 15 日刊、76、96 頁。末川博: 1892～1977)
- ・『京都大学百年史 部局史編 1』 京都大学後援会 (平成 9 年 9 月 30 日刊) 310 頁)
- ・大平祐一 (1946～) 「小早川欣吾」 岸本美緒 (1953～) 責任編集『歴史学事典・5 歴史家とその作品』弘文堂 (平成 9 年 10 月 15 日刊、221～222 頁)

平成 10 (1998) 年

- ・白羽祐三 (1925～2005) 『「日本法理研究会」の分析』 中央大学出版部 (2 月 5 日刊、255、430 頁)

平成 11 (1999) 年

- ・林紀昭 (1941～) 「前田正治先生の御逝去を悼む」 『法制史研究』 48 (1998) (平成 11 年 3 月 30 日刊、377～378 頁) (註: 前田正治: 1913～1998、前田博士は平成 10 年 1 月 30 日逝去された。享年 82。)
- ・「小早川欣吾」 日本歴史学会編『日本史研究者辞典』吉川弘文館 (平成 11 年 6 月 1 日刊) 140 頁

平成 12 (2000) 年

- ・落合弘樹 (1962～) 「西南戦争期における京都府警察」『人文学報』(京都大学人文科学研究所) 第 83 号 (平成 12 年 3 月刊) 40 頁 (平成 21 年 8 月 15 日追加)
<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/48549/1/83_39.pdf> (アドレスのみ: 平成 25 年 2 月 14 日追加)
- ・加藤友康 (1948～) ・由井正臣 (1933～2008) 編『日本史文献解題辞典』吉川弘文館 (平成 12 年 5 月 10 日刊、240、241 頁)
- ・小泉輝三朗 (1895～1992.8.7) 『明治黎明期の犯罪と刑罰』(批評社、平成 12 年 10 月 10 日刊) 26～33 頁参照。(平成 20 年 2 月 28 日追加)

平成 14 (2002) 年

- ・研究代表者岩野英夫 (1944～) 『法学教育における法史学の存在価値—わが国における法史学の成立と展開との関連で—』平成 11 年度—平成 13 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (C) (2)) 研究成果報告 (3 月刊) (註: これには、前掲岩野英夫「わが国における法史学の歩み (1873—1945) —法制史関連科目担任者の変遷—」『同志社法学』第 39 巻第 1・2 号 (第 200 号記念論集 I、昭和 62 年 7 月 31 日刊)
<<http://ci.nii.ac.jp/naid/110000588862>> の修正版が収録されている。)

平成 15 (2003) 年

- ・わが国における法史学の歩み研究会 (代表岩野英夫) 「聞き書き・わが国における法史学の歩み (2) —井ヶ田良治先生にお聞きする—」 『同志社法学』第 55 巻第 1 号 (第 292 号、平成 15 年 5 月 31 日刊) (305 頁、310 頁) (井ヶ田良治: 1926～2018)
<<http://ci.nii.ac.jp/naid/110000200281>>
- ・伊藤孝夫 (1962～) : 『瀧川幸辰—汝の道を歩め—』 (ミネルヴァ書房、平成 15 年 10 月 10 日刊) (令和 6 (2024) 年 3 月 21 日追加)
<<https://www.minervashobo.co.jp/book/b48516.html>>

・杉本史子（1958～）「小早川欣吾『近世民事訴訟制度の研究』有斐閣、1957（増補版：名著普及会、1988）」『日本史文献事典』（弘文堂、平成 15 年 12 月 15 日刊）480 頁
・石川一三夫・中尾敏充・矢野達雄編『日本近代法制史研究の現状と課題』（弘文堂、平成 15 年 12 月 30 日刊）77、80、81、93、95、131、395、396、411 頁（平成 21 年 8 月 15 日追加）

平成 16（2004）年

・松尾尊兌（1929～2014）「滝川事件以後—京都大学法学部再建問題—」『京都大学大学文書館研究紀要』第 2 号（平成 16 年 2 月 29 日刊）1～27 頁（平成 21 年 5 月 10 日追加）

〈<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/68848>〉

・「57-2 小早川文庫」『日本の大学所蔵特殊文庫解題目録』（ドイツ・日本研究所文献目録シリーズ 8 2004 年。）（57 京都大学法学部図書室。ドイツ語・日本語併記。発行：ドイツ・日本研究所、発行月日：未記載）

〈<http://tksosa.dijtokyo.org/?lang=ja>〉（2004 Koch, Matthias Vol. 8: Universitäre Sondersammlungen in Japan - Eine deutsch-japanische annotierte Bibliographie）

平成 17（2005）年

・松尾尊兌（1929～2014）『滝川事件』（岩波現代文庫、平成 17 年 1 月 18 日刊）242、246、258、262 頁

・内藤金吾（? ～）『きんごまんだら 弐』（自己出版、名古屋市・あるむ発売、平成 17 年 1 月 20 日刊）61 頁

・井上智勇（1906～1984）「思い出の一、二」京都大学文学部『以文会友—京都大学文学部今昔』（京都大学学術出版会、平成 17 年 5 月 15 日刊。ただし、初出：『以文』第 13 号（昭和 45/1970 年 10 月））128、129 頁（小早川先生の当時の職位は講師か。）

平成 21（2009）年

・西山伸（1963～）「滝川事件について—牧健二氏・大隅健一郎氏聞き取り—」『京都大学大学文書館研究紀要』第 7 号（平成 21 年 2 月 27 日刊）55～84 頁（小早川先生：65 頁。牧健二：1892～1989、大隅健一郎：1904～1998）（平成 21 年 5 月 10 日追加）

〈<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/70919>〉（URL のみ：平成 25 年 2 月 14 日追加）

平成 28（2016）年

・「教員履歴データベース（京都大学歴代総長・教授・助教授履歴検索システム—対象：1949 年以前の在職者〔旧制〕—）」参照。（平成 29 年 11 月 18 日追加）

〈<https://kensaku.kual.archives.kyoto-u.ac.jp/rireki/>〉

〈<https://kensaku.kual.archives.kyoto-u.ac.jp/rireki/?c=detail&id=000387>〉

（更新日：2016/8/31、システム管理番号 000387）

・和仁かや「金田平一郎と九州帝国大学」『法政研究』第 83 巻第 3 号（平成 28 年 12 月 刊（12 日印刷））219～238 頁（平成 29 年 11 月 18 日追加）

〈<http://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/recordID/1790483>〉

平成 29（2017）年

・高塩博（1948～）『江戸幕府法の基礎的研究〔論考篇・史料篇〕』（全二冊、汲古書院、

平成 29 年 2 月 27 日刊）（平成 29 年 11 月 18 日追加）

〈<http://www.kyuko.asia/book/b282928.html>〉

・牧英正（1924～2018）・安竹貴彦（1962～）『大阪「断刑録」—明治初年の罪と罰』（阿吽社、平成 29 年 10 月 31 日刊、2,000 円+税）（牧博士「まえがき」によれば、口絵に利用の絵本「末代噺」は小早川欣吾先生旧蔵書で現在京都大学法学部所蔵のものとの由。）（平成 30 年 9 月 9 日追加）

平成 30（2018）年

・金田平一郎（1900～1949）著・和仁かや監修『近世民事責任法の研究』（九州大学出版会、平成 30 年 9 月 10 日刊）（和仁かや氏「解題」（333～345 頁）、秀村選三氏（九州大学名誉教授（日本経済史）、1922～2021）「【寄稿】金田先生の思い出」（347～353 頁）及び金田久仁彦氏「【手記】父の生きた時代を追って—ささやかなルーツと世相の一端—」（355～360 頁）を収録。）（平成 30 年 9 月 9 日追加）

・趙晶（1983～、（当時）中国政法大学法律古籍整理研究所副教授）「論小早川欣吾の東洋法制史研究」『法制史研究』第 34 期（2018（平成 30）年 12 月刊）177～191 頁

〈http://flgj.cupl.edu.cn/local/9/68/58/ECF3D4F427BD6FA6CEECF5B7967_E996F37F_DA888.pdf#search=%27%E5%B0%8F%E6%97%A9%E5%B7%9D%E6%AC%A3%E5%90%BE++E8%B6%99%E6%99%B6%27〉

（趙晶「法制人物 論小早川欣吾の東洋法制史研究（含中英摘要） 177～191 頁」

〈http://proj1.sinica.edu.tw/~leghist/pages/data_1_12.html〉

〈<https://www2.ihp.sinica.edu.tw/publish4.php?TM=5&M=4&C=61>〉）

（令和元年 9 月 6 日追加）

平成 31（2019）年

・「牧英正先生略年譜・著作目録稿」『法史学研究会会報』第 22 号（高塩博先生古稀記念号）（法史学研究会、平成 31（2019）年 3 月 30 日刊。牧英正：1924～2018）274～281 頁（令和元年 9 月 6 日追加）

・安竹貴彦「牧英正先生を偲ぶ」『法制史研究 68』（平成 31（2019）年 3 月 30 日刊）388～392 頁（令和元年 9 月 6 日追加）

令和 5（2023）年

・『京都大学百二十五年史 通史編』（京都大学百二十五年史編集委員会編、京都大学学術出版会、令和 5（2023）年 1 月刊）（令和 5（2023）年 7 月 11 日追加）

〈<https://www.kyoto-up.or.jp/books/9784814004560.html>〉

令和 6（2024）年

・『CD 版 上山安敏先生・柴田光蔵先生・西村稔先生・宮崎道三郎博士・池辺義象氏・小林宏先生・千賀鶴太郎博士・戸水寛人博士略年譜・著作目録 附録：「日本ローマ法・法制史学者等略年譜・著作目録・追悼辞」掲載資料抄（追補）中田薫博士・瀧川政次郎博士・三浦周行博士・牧健二博士各関係資料抄 —ローマ法・法制史学者著作目録選（第十六輯）—』（CD 版、令和 6（2024）年 1 月 1 日刊）（令和 6（2024）年 3 月 21 日追加）

〈<https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I033346841>〉

・伊藤孝夫（1962～）『佐々木惣一 論理ノ正確ハ法理探究ノ目標ナリ』（ミネルヴァ書房、令和 6（2024）年 2 月 10 日刊）（令和 6（2024）年 3 月 21 日追加）

〈<https://www.minervashobo.co.jp/book/b639427.html>〉

・西英昭「瀧川政次郎の東洋法制史学に関する中間報告」『法政研究』第 91 巻第 3 号（令和 6（2024）年 12 月刊）233～262 頁（令和 7（2025）年 1 月 1 日追加）

〈https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_detail_md/?reqCode=frombib&lang=0&amode=MD100000&opkey=b151800832901880&bibid=7329609&start=〉

令和 7（2025）年

・趙晶（赵晶、1983～）「日本东洋法制史学的现在：学缘、人物与动向」（令和 6（2024）年 6 月頃、現在未公表か）（令和 7（2025）年 8 月 9 日追加）

ウ 小早川欣吾先生略年譜・著作目録一覧

・初版（初稿）

「小早川欣吾先生著作等目録稿」『栗生武夫先生・船田享二博士・小早川欣吾先生著作等目録稿』（平成 7（1995）年 8 月 1 日刊）所載

・改訂版（改訂稿）

「小早川欣吾先生著作等目録稿」『栗生武夫先生・船田享二博士・小早川欣吾先生著作等目録稿（改訂版）』（平成 7（1995）年 11 月 1 日刊）所載

・二訂版（二訂稿）は資料作成はしたものの刊行には至らなかった。

・三訂版（三訂稿 A）

「小早川欣吾先生著作等目録稿」『栗生武夫先生・船田享二博士・小早川欣吾先生著作等目録稿（三訂版）』（平成 8（1996）年 2 月 1 日刊）所載

・三訂版増補版（三訂稿 B）

「小早川欣吾先生著作等目録稿」『栗生武夫先生・船田享二博士・小早川欣吾先生著作等目録稿（三訂版増補版 9）』（平成 9（1997）年 1 月 15 日刊）所載

・四訂稿

『小早川欣吾先生略年譜・著作目録（四訂稿）』（小田輝子氏「叔父小早川欣吾の思い出」掲載、平成 9（1997）年 10 月 20 日刊）

・五訂稿

『小早川欣吾先生略年譜・著作目録（五訂稿）』（平成 10（1998）年 3 月 20 日刊）

・六訂稿

『栗生武夫先生・小早川欣吾先生・戴炎輝博士略年譜・著作目録（新版）〔附〕『小早川欣吾先生東洋法制史論集』（平成 8 年 6 月 25 日刊）補遺（第一輯）—ローマ法・法制史学者著作目録選（第一輯）—』（平成 15（2003）年 9 月 1 日刊）所載

・七訂稿

『栗生武夫先生・小早川欣吾先生・戴炎輝博士・小林宏先生・山崎丹照先生略年譜・著作目録（二訂版）—内藤吉之助教授・金田平一郎博士著作目録（初稿）— —ローマ法・法制史学者著作目録選（第八輯）—』（平成 19（2007）年 1 月 1 日刊、CD 版あり。）所載

・八訂稿

「小早川欣吾先生略年譜・著作目録（八訂稿）」CD 版『小早川欣吾先生東洋法制史論集（増補版）併載：小早川欣吾先生略年譜・著作目録（八訂稿）—ローマ法・法制史学者著作目録選（第十二輯）—』（平成 28（2016）年 8 月 1 日刊）所載

・九訂稿

「小早川欣吾先生略年譜・著作目録 HP 版（九訂稿）」（本 HP 掲載、平成 29（2017）年 11 月 18 日作成）

（追記）（平成 30（2018）年 9 月 9 日追加）

その後『CD 版 ローマ法、法制史、明治警察史及び日本統治下台湾警察史の諸問題—ローマ法・法制史学者著作目録選（第十三輯）— —明治警察史雑纂（第四輯）— —日本統治下台湾警察史雑纂（第八輯）—』（平成 30（2018）年 1 月 1 日刊）にも収録した。

〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm>〉

・十訂稿

「小早川欣吾先生略年譜・著作目録 HP 版（十訂稿）」（本 HP 掲載、令和 3（2021）年 11 月 9 日作成）

・十一訂稿（下記に収録す。）

「小早川欣吾先生略年譜・著作目録 HP 版（十一訂稿）」

『CD 版 宮崎道三郎博士・小林宏先生・西村稔先生・高橋由利子先生略年譜・著作目録—
【参考篇】【附篇】—ローマ法・法制史学者著作目録選（第十五輯）—』（令和 4（2022）
年 4 月 1 日刊）に収録。

・十二訂稿「小早川欣吾先生略年譜・著作目録（十二訂稿）」（令和 4（2022）年 6 月 30 日作成）（本 HP 掲載）

・十三訂稿「小早川欣吾先生略年譜・著作目録（十三訂稿）」（令和 5（2023）年 7 月 11 日作成）（本 HP 掲載）

・十四訂稿「小早川欣吾先生略年譜・著作目録（十四訂稿）」（令和 6（2024）年 3 月 21 日作成）

・十五訂稿「小早川欣吾先生略年譜・著作目録（十五訂稿）」（令和 7（2025）年 1 月 1 日作成）

・十六訂稿「小早川欣吾先生略年譜・著作目録（十六訂稿）」（本稿。本 HP 掲載、令和 7（2025）年 8 月 9 日作成）

エ 小早川欣吾先生メモ（第一輯（補訂二稿））

はじめに

本「小早川欣吾先生メモ」は、かつて「小早川欣吾先生略年譜・著作目録」作成の備忘録として書き始めたものである。最初『栗生武夫先生・船田享二博士・小早川欣吾先生著作等目録稿（三訂版）』（平成8（1996）年2月1日刊）に「小早川欣吾先生メモ（第1輯）」として一部を収録し、更に『小早川欣吾先生東洋法制史論集』（平成8年6月25日刊）にも収録した。その後、『小早川欣吾先生略年譜・著作目録（四訂稿）』（平成9（1997）年10月20日刊）に「小早川欣吾先生メモ（第1輯・補訂初稿）」として補正稿を掲載したが、そこで中断したまま現在に至った。その後早くも20年近くなる現時点ではかなり修正、追加すべきことも多いが、その余裕もなきたため、遺憾ながら今回はただ字句を多少整理し、二、三追記しただけで再録しておくこととする。なお、本稿中に記載した小早川先生論稿、関係記事の多くを収載している京都帝国大学法学会の『法学論叢』は、現在はウエストロー・ジャパン（Westlaw Japan）で容易に見ることができるので、それを御覧いただければ幸甚である。〈<http://www.westlawjapan.com/>〉。

〔目 次〕

（ア）小早川先生との出会い	54
（イ）小早川先生追想論稿	54
（ウ）小早川先生の処女論文	55
（エ）日本法制史の講義	55
（オ）小早川先生出題の「東洋法制史」の試験問題	56
（カ）京大法学部各種研究会との関係	57
（キ）「社会経済史学会」と小早川先生	59
（ク）「憲法史研究会」と小早川先生	59
（ケ）手塚豊博士と小早川先生	59
（コ）栗生武夫先生との関係	59
（サ）小早川文庫のこと	60

（下記両稿は「小早川欣吾先生メモ（第一輯・補訂初稿）」に追加掲載したものであるが、今回はともにここでは省略した。）

※『小早川欣吾先生東洋法制史論集』編者あとがき（省略。）

※『小早川欣吾先生東洋法制史論集』刊行の菜（省略。）

（参考：本 HP 所載別稿「『小早川欣吾先生東洋法制史論集』収録論稿目次その他」

〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayakawa_toyohoseishi.pdf〉参照。）

（（参考）部分は令和3年11月9日追加）

(ア) 小早川先生との出会い

小早川欣吾先生（1900～1944）のお名前に初めて接したのは、昭和 42（1967）年春受講した学部二回生配当の中澤巷一先生（1930～）の「日本法制史」の「参考書」として指定された石井良助博士（1907～1993）『日本法制史概要』（創文社、昭和 27 年刊）による。同書末尾の「日本法制史文献」を見ていて、小中村清矩博士（1812～1895）の『陽春廬雜考』（吉川半七（吉川弘文館の前身）、明治 30 年 12 月 20 日刊）を何と読むのか疑問に思ったこと、そして小早川欣吾先生のお名前が頻繁に見え、これが『法学論叢』第〇巻第〇号と延々と続くので、この方は今一体どこにおられるのだろうかと考えたことを思い出す。小早川先生については、早速その翌日当時の開架式図書室備付けの『法学論議』を昭和 6（1931）年頃より一巻ずつめくっていき、やっと同第 50 巻第 4 号（昭和 19 年刊）の牧健二博士（1892～1989）「小早川教授の逝去」に至って深い感慨を覚えた次第である。

先年、思い立って、上記と同じ作業を、今度は抜き出してみることにしたのが、先にまとめた『栗生武夫先生・船田享二先生・小早川欣吾先生著作等目録稿（三訂版）』（平成 8（1996）年 2 月 1 日刊）である。さっぱり知的進歩していないことを恥じている。平成 7（1995）年 8 月 15 日に初稿をまとめたが、その後、識者の御教示等を得て、これらを基に改訂し、少しでも完全なものに近づけるべくしているところである。

小早川先生については、かなり以前に令弟小早川巖氏（彦根市御在住）に御指導を賜り、最近では令姪小田輝子女史（同）の教えを受けている。両氏の御厚情に対して、遥かに厚く御礼申し上げる次第である。

（追記 1: 小早川巖氏（1907～2006, 99 歳）には平成 18（2006）年 9 月に逝去された。享年 99。謹んで御冥福をお祈りいたすものである。）

（追記 2: 小田輝子女史（1927～2022）には令和 4（2022）年 7 月 4 日に逝去された。謹み御冥福をお祈りいたすものである。）（令和 7（2025）年 8 月 9 日追加）

(イ) 小早川先生追想論稿

小早川先生については、前掲牧健二博士（1892～1989）「小早川教授の逝去」（『法学論叢』第 50 巻第 4 号、昭和 19 年刊）が最も感銘深い。戦後、牧博士は、昭和 32（1957）年 9 月 30 日に小早川先生の近世民事訴訟制度に関する論文を編集されて有斐閣より『近世民事訴訟制度の研究』を刊行された際にその序及び解題を、更に、昭和 54（1979）年 10 月 23 日に小早川先生の『日本担保法史序説』新版（法政大学出版局、昭和 54 年 10 月刊）が刊行された折にも、跋を書かれている。この他、牧博士は、昭和 51（1976）年に、『滝川事件及び法学部存続当時の真相』補筆（『有信会誌』（京都大学法学部同窓会誌）第 20 号、昭和 51 年 10 月 1 日刊）で、近藤英吉教授（1901～1940、元京大法教授、民法）の思い出とともに、小早川先生のそれを誌しておられる。また、昭和 63（1988）年 6 月に小早川先生の『増補近世民事訴訟制度の研究』（名著普及会、昭和 63 年 6 月 20 日刊）が刊行された際には、牧英正博士（1924～2018）が「復刊にあたって」を執筆されておられる。なお、前田正治博士（1913～1998）に前記『近世民事訴訟制度の研究』に対する書

評（『法と政治』第8巻第3・4号、昭和32年12月刊）がある。更に、牧英正博士は、平成8（1966）年6月、『小早川欣吾先生東洋法制史論集』（自己出版、平成8年6月25日刊）に「小早川欣吾先生の東洋法制史論集上梓によせる序」を書かれている。小早川先生についての回想は、この七稿に尽きると思われる。

（ウ）小早川先生の処女論文

かなり以前に、旧制山口高等学校同窓会鴻南会事務局山野芳樹氏から、『鴻峯四十年—旧制山口高校沿革史—』（昭和37年刊）及び同校校友会誌の件で御教示を受け、小早川先生が大正13（1924）年の同誌第12号に「山口県下に於ける考古学調査の一片」を寄稿しておられることを知った。その後、『小早川欣吾先生著作等目録稿』をまとめている過程で、先生の学界での初のお仕事は昭和6（1931）年の『法学論叢』第25巻第1、2号に掲載された「徳川時代の動産質（1）、（2）完」と思い込んでいたが、平成7（1995）年秋に、小林宏先生（1931～）の御指導で、小早川先生と御親交があられた前田正治博士（1913～1998）に御教示を仰いだところ、『歴史と地理』所収の論説についての御指摘を賜った。それによると、小早川先生は、昭和5（1930）年の『歴史と地理』に次のように寄稿されている。

- ・走人に関する阿波藩の法制（1）、（2）完（『歴史と地理』第25巻第1、2号）
- ・加賀藩の改作法に就いて（1）、（2）、（3）完（『歴史と地理』第26巻第4、5、6号）

『歴史と地理』には、昭和7年に「西ゴート王アラルリック二世の発布したる羅馬人法（1）、（2）、（3）完（『歴史と地理』第29巻第6号、第30巻第1、2号）」が掲載されているので、本来ならバックナンバーを調べておかなければならなかったところ、つい怠って、学界処女作を上記『目録稿』（初版、改訂版）から逸すというまことに面目ないことをしでかしてしまい、大変恥ずかしく思っている。前田博士の御教示に対して深甚の謝意を表する次第である。

（エ）日本法制史の講義

小早川先生は、昭和16（1941）年4月より、京都帝国大学において東洋法制史を講義しておられる（『京都帝国大学史』、『京都大学七十年史』等参照）が、日本法制史については、昭和12（1937）年度より、同志社大学法学部で講師を委嘱されている。先生の講義録の発掘が期待される。末弘厳太郎（1888～1952）責任編輯『法律年鑑』（日本評論社）は、例えば昭和12年版で小早川先生が日本法制史を担当していることを記載している。その余については、昭和12、14、16、18年版に同様の記述がある。その他の年、すなわち昭和15、17年は、田中周友博士（1900～1996）が西洋法制史を講義しておられる。

また、これにつき、識者の御教示によれば、大要次のとおりである。「小早川先生に関しては、昭和12年4月1日から三年間は毎年法学部講師嘱託の記録が存在する。また、『同志社職員録』では昭和18年のものまで載っている、昭和19年3月末日まで委嘱していたと思われる。ただし、昭和15年、同17年は休職と掲載してある。担当科目は日本法制史である。戦争中のことであり、事務の方が手薄となり、完全な記録が残らなかった

のではないかと推測される。」

なお、関西のその他の私学については、立命館大学の淵定教授（1909～1944）を除き、牧健二博士がほとんど出講されており、小早川先生のお名前は、上記同志社大学以外では、立命館大学の昭和8年度（『立命館要覧』昭和9年1月現在）を除き、見当たらない（追記：昭和7～10年度もある由。）。この他、調査中であるが、小早川先生は、昭和17年、18年の両年、近畿大学の前身の日本大学大阪専門学校又は大阪専門学校の機関誌『法商研究』に寄稿されているところから、あるいは、同校において日本法制史を講じておられた可能性がある。

（オ）小早川先生出題の「東洋法制史」の試験問題

戦前期の『法律時報』は、毎年「東京、京都、東北、九州各帝大法学部（法文学部）試験問題」を資料として掲載している。先にも触れたように（本メモ（4）参照）、小早川先生は、昭和16（1941）年4月より京大で東洋法制史を講じられているので、上記『法律時報』よりその試験問題の一部を抜き出しておくこととする。先生の御講義の一端がうかがえるものとして貴重である。

昭和16年12月施行（『法律時報』第14巻第2号〈昭和17年刊〉101頁）

- 1 支那の国家の特徴を概述せよ。
- 2 左記の語につき知れる所を記せ。

一子雙祧

夷三族

昭和17年7月施行（『法律時報』第14巻第9号〈昭和17年刊〉64頁）

支那に於ける婚姻形式の変遷を概説せよ。

昭和18年7月施行（『法律時報』第15巻第9号〈昭和18年刊〉76頁）

（京大は不掲載）

[註：小早川先生は昭和19年6月15日逝去]

（追記）

京都帝国大学法学部における東洋法制史の講義端緒

『京都帝国大学史』（京都帝国大学、昭和18年12月20日刊）によれば、京都帝国大学法学部における東洋法制史の講義は昭和16年4月から小早川欣吾助教授（当時）が担当することになったというが、『仁井田陸博士追悼論文集第1巻 前近代アジアの法と社会』（勁草書房、昭和42年10月15日刊）の同博士略歴（534頁以下）を見ると、「昭和15年10月～11月京都帝国大学法学部において「支那法制史」の特別講義囑託」とある（『東京大学東洋文化研究所紀要』34（昭和39年3月刊）併照。仁井田陸：1904～1966）。これからすると、京大法学部における東洋法制史は、仁井田博士、小早川教授と続くわけであるが、寡聞にして、仁井田博士関係文献がよくわからなかった。しかるに、最近、『京都帝国大学新聞』第320号（昭和15年10月20日（日）第1面（『京都大学新聞復刻版』第2巻（京都大学新聞社、昭和44年7月10日刊）601頁）に、「支那法制史 特別講義開講」との記事が掲載されているのを見い出したので、参考までに、採録しておく。なお、同年

11 月にも、その後半部分の講義があったと思われるが、これについては不詳。

「支那法制史 特別講義開講 本年学部規程の一部を改正し、東亜新秩序建設にともなひ東亜認識の深化のため新たに東洋法政史 [マ] の講座を加へた法学部ではさらに唐令拾遺その他の著書によつて東洋法制史家として知られた東方文化学院研究員仁井田陞博士を招いて刑法および家族法を主とする「支那法制史」の特別講義を明 [十月] 二十一日午後三時および二十二日午前十時の二回にわたつて第十番教室で開催する。」

(カ) 京大法学部各種研究会との関係

小早川先生は、京大法学部の各種研究会にも精力的に出でおられる。ここでは、『法学論叢』により小早川先生が京大を卒業された昭和 4 (1929) 年から逝去された昭 19 (1944) 年までの間の足跡 (ただし、「出席」のみを除く。) を辿ってみることとしたい。なお、『法学論叢』に一時廃止されていた「雑報」覧が再度取り入れられたのは、昭和 7 (1932) 年 1 月の第 28 巻第 1 号以降であるので、それ以前については、現時点では不明である。

〈ア〉民法座談会関係 (民法座談会につき、『法律学全集』(有斐閣) 第 23 号 (昭和 34 年 3 月刊)、同第 24 号 (同 4 月刊)、小早川先生につき、同第 24 号 (通頁 190) 参照)

昭和 7 (1932) 年

- ① 8 月 26 日 「建物ノ請負ト所有権ノ帰属 (大判第 11 巻第 8 号)」を發表 (『法学論叢』第 28 巻第 4 号 202 頁)
- ② 10 月 10 日 「中世末期より近世初期までの農民闘争形態」を發表 (『法学論叢』第 28 巻第 5 号 180 頁)

昭和 8 (1933) 年

- ③ 3 月 13 日 「細川亀市氏『日本中世寺院法総論』」を發表 (『法学論叢』第 29 巻第 4 号 663 頁。同 629 頁以下に「紹介」あり。)
- ④ 3 月 24 日 「法定地上権の取得 (大判民集第 11 巻第 21 号)」を發表 (『法学論叢』第 29 巻第 5 号 842 頁)

〈イ〉法理学会関係

昭和 8 (1933) 年

- ① 4 月 11 日 「ランプレヒトの史観に対する二三の疑点」を發表 (『法学論叢』第 29 巻第 5 号 842 頁)

(註: 法理学会につき、加藤新平等「座談会・『法理学会の歩み』」(『書齋の窓』第 448 号、平成 7 年 10 月号) 参照)

〈ウ〉法律研究会関係

昭和 9 (1934) 年

- ① 11 月 17 日 (第 62 回例会、於楽友会館) 「近世の裁判組織と審級及管轄」を發表 (『法

学論叢』第31巻第6号156頁、内容については『法学論叢』第31巻第6号以下に掲載）
昭和10（1935）年

② 6月15日（第69回例会、於楽友会館）「公事方御定書は旗本御家人に適用されたか」を
発表（要旨あり）（『法学論叢』第33巻第1号198頁）

③ 9月21日（第70回例会、於楽友会館）京都地裁所長久保田美英氏が「現行裁判制度
の実情」を発表されたのに関し要旨執筆（『法学論叢』第33巻第4号166頁）

昭和13（1938）年

④ 5月28日（第98回例会、於楽友会館）「近世の民事裁判手続と其原則」を発表（要旨
あり）（『法学論叢』第38巻第6号187頁）

〈エ〉法政読史会関係（昭和11（1936）年4月25日が初回か？（『法学論叢』第34
巻第5号882頁））

① 9月20日（於楽友会館）「満洲国旅行報告」を発表（『法学論叢』第35巻第4号209
頁）

昭和12（1937）年

② 3月23日（於楽友会館）「地理学的史観について」を発表（要旨あり）（『法学論叢』第
36巻第4号117頁）

③ 5月22日（於楽友会館）石川興二氏（1892～1976、京大経教授）が「国民生命」を
発表されたのに関し要旨執筆（『法学論叢』第36巻第6号216頁）

〈オ〉水曜会関係

昭和15（1940）年

① 11月30日（於楽友会館）「帝国憲法の成立過程」を発表（『法学論叢』第44巻第1号
188頁）

〈カ〉京都帝国大学法学会大会関係

昭和10（1935）年

① 昭和10年度京大法学会大会（昭和10年11月16日、法経第四教室）で、講師鈴木秀
人氏が「我が国に於ける刑事裁判の変遷」を講演されたのに関し要旨執筆（『法学論叢』第
33巻第6号184頁）

昭和11（1936）年

② 昭和11年度京大法学会大会（昭和11年11月14日、法経第四教室）で「議会制度移
入に就て」を発表（『法学論叢』第35巻第6号209頁、『法学論叢』第36巻第1号に「維
新以前に於ける議会制度の移入について」を掲載（後に『明治法制叢考』に再録））

〈キ〉その他

① 『法学論叢』第44巻第4号（昭和16年4月）号末の「本年度授業担任」中に「東洋
法制史：小早川助教授」の記載あり。

(キ)「社会経済史学会」と小早川先生

昭和 7 (1932) 年 10 月 27 日、社会経済史学会第二回大会が京大楽友会館で開催されたが、小早川先生は、「中世に於ける動産質の設定」を発表されている(『社会経済史学』第 2 巻第 9 号(昭和 7 年 12 月刊) 99 頁、後に「我国中世に於ける動産質 (1)、(2) 完」(『社会経済史学』第 2 巻第 9、10 号、昭和 7、8 年刊) として発表)。

(ク)「憲法史研究会」と小早川先生

「憲法史研究会」の旧憲法研究史上に占める位置は極めて大きい。同研究会については、大石眞教授(1951～)『「憲法史研究会」について—日本憲法史の周辺 (1)—』(『書齋の窓』第 438 号(平成 6 年 10 月号))、同『日本憲法史の周辺』(成文堂、平成 7 年刊)、佐藤功博士(1915～2006)『「二つの憲法の成立史」—日本憲法史の周辺 (2)、(3)—』(『書齋の窓』第 439 号(平成 6 年 11 月号)、同 440 号(平成 6 年 12 月号))等に詳しいが、大石教授は、平成 6 (1994) 年 9 月 5 日京大会館で開催された梧陰文庫研究会第 116 回研究会において、「憲法史研究会について—明治憲法研究の一齣—」と題して研究発表をされておられる(梧陰文庫研究会「京都研究会・見学会」(『國學院法學』第 32 第 3 号(平成 6 年刊) 205 頁以下参照)。

その時配布されたといわれる資料に、「憲法史研究会の足跡」があるが、これによれば、小早川先生は、昭和 18 (1943) 年 5 月 8 日の同研究会京都春季例会 V (於京大楽友会館)において、「一私擬憲法案」を報告されている。同資料によれば、上記講演速記録は存在しないようであるが、あるいは小早川先生『明治法制叢考』(京都印書館、昭和 20 年刊)所収の「四 新たな一私擬憲法案」のことなのかも知れない。未だ確認できないが、「憲法史研究会」と小早川先生の関わり合いを示すものとして、ここに誌しておくこととした。

この他、憲法史研究会については、伊藤巳代治(1857～1934)遺稿・三浦裕史(1961～)編『大日本帝国憲法衍義』(信山社、平成 6 年 6 月 30 日刊) 123 頁以下、大久保利謙(1900～1995)『日本近代史学事始め—歴史家の回想—』(岩波新書、平成 8 年 1 月 22 日刊) 131 頁以下等に詳しい。

(ケ) 手塚豊博士と小早川先生

手塚豊博士(1911～1990)は、『三田評論』第 723 号(昭和 48 年刊)に、「私の古典小早川欣吾著『明治法制史論・公法之部上下』」を寄稿しておられる。明治法制史の権威であった手塚博士の小早川先生観がうかがえるものである。

(コ) 栗生武夫先生との関係

現在、小早川先生と並行して、栗生武夫先生(1890～1942)の事績を調べているが、両先生の接点を探ることはなかなか面白いことである。栗生先生は昭和 3～8 (1928～1933)

年の間、京大法学部講師として西洋法制史を講義されておられたから、当然小早川先生も個人的な接触は有していたと思われる。

その格好の素材は、前掲「西ゴート王アラリック二世の発布したる羅馬人法（1）、（2）、（3）完」（『歴史と地理』第29巻第6号、第30巻第1号、2号、昭和7年刊）である。小早川先生は、その（2）の30頁で「本稿は栗生博士の教を受くる甚だ多かつた。」旨誌されるとともに、栗生博士昭和6年京大講義、栗生博士ノート、栗生博士『西洋立法史』とか記載されている。

日本法制史の専攻者である小早川先生がローマ法に何故関心を有されたのかについては不詳であるが、『日本学士院八十年史（本編、資料編二）』（昭和37年3月刊）の「藤田（平太郎）男爵奨学費受費者（自大正七年至昭和十九年）」中昭和六年羅馬法学奨学費受費者に、「京都帝国大学大学院学生小早川欣吾」の記述がある（同書資料編2464頁）。

なお、小早川先生は、処女作『日本担保法史序説』（宝文館、昭和8年）の序において、栗生先生に感謝の意を表しておられる。

（サ）小早川文庫のこと

小早川先生の旧蔵書は、京都大学法学部に『小早川文庫』として収蔵されている。昭和50年代に整理され、『小早川文庫目録』（京都大学法学部発行、昭和53年3月31日刊）が刊行されている。かつて同文庫を見る機会があっただけに、まことに感慨にたえない。なお、石井良助博士（1907～1993）の御蔵書の一部は、専修大学図書館に「石井良助文庫」、江戸東京博物館に『石井コレクション』として保管されている。

〈<http://www.senshu-u.ac.jp/libif/lib/introcollection.html>〉

（追記）HP「京都大学法学研究科・法学部図書室」個人文庫参照。

〈<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/lawlib/collections.html>〉

〈<http://ci.nii.ac.jp/ncid/BN01098640>〉

（参考1）『小早川欣吾先生東洋法制史論集』収録論稿目次その他（三訂稿）の件

・本稿はHP「法制史学者著作目録選」〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/>〉中に収録の下記を参照。（令和3年11月9日一部修正）

「『小早川欣吾先生東洋法制史論集』収録論稿目次その他（三訂稿）」

〈http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayakawa_toyohoseishi.pdf〉

（参考2）牧健二博士・牧英正博士関係資料（平成30（2018）年9月9日追加）

・牧健二博士米寿記念日本法制史論集刊行会編『牧健二博士米寿記念 日本法制史論集』（「肖像」、「牧健二博士年譜・著作目録」あり（827-844頁）。思文閣出版、昭和55年11月2日刊）（牧健二博士：1892～1989）

・『法学雑誌』第34巻第3・4号（大阪市立大学、牧教授、本間〔輝雄〕教授、本多〔淳

亮〕教授退任惜別記念号）（肖像、「牧英正教授略歴、著作目録」あり、献辞：法学部長中山研一、昭和 63 年 3 月 20 日刊）

・牧英正「私の法制史」『法学雑誌』第 35 巻第 2 号（昭和 63 年 12 月刊）461～497 頁

・『奈良法学会雑誌』第 12 巻第 3・4 号（牧英正教授、中村幹雄教授退任記念号）（肖像、「牧英正先生略歴。主要著作論文等目録」あり、ごあいさつ：奈良産業大学法学会会長：中井美雄、平成 12 年 3 月 1 日刊）

〈https://naragakuen.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&index_id=90&pn=1&count=20&order=7&lang=japanese&page_id=13&block_id=21〉（機関リポジトリ）

（牧英正博士（1924～2018）：平成 30（2018）年 7 月 8 日（水）京都にて逝去。御蔵書の一部は福知山公立大学〈<https://www.fukuchiyama.ac.jp/>〉に保存か。）

・「牧英正博士著作目録等抄（初稿）」（平成 30（2018）年 8 月 9 日（木）初稿作成）

⇒本 HP 別稿「牧英正博士著作目録等抄」参照。（この部分令和 3 年 11 月 9 日追加）

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/maki001.pdf>〉

・「牧英正先生略年譜・著作目録稿」『法史学研究会会報』第 22 号（高塩博先生古稀記念号）（法史学研究会、平成 31（2019）年 3 月 30 日刊）274～281 頁（令和元年 9 月 6 日追加）

・安竹貴彦「牧英正先生を偲ぶ」『法制史研究 68』（平成 31（2019）年 3 月 30 日刊）388～392 頁（令和元年 9 月 6 日追加）

〔人名索引〕

（ただし、内容、頁数は「八訂稿」時のものであるが、参考までに残しておく。その後に判明の事項には（ ）を付した。）

（「八訂稿」：「小早川欣吾先生略年譜・著作目録（八訂稿）」CD 版『小早川欣吾先生東洋法制史論集（増補版）併載：小早川欣吾先生略年譜・著作目録（八訂稿）—ローマ法・法制史学者著作目録選（第十二輯）—』（平成 28（2016）年 8 月 1 日刊）所載）

〔邦人〕

（あ行）

浅井清（1895～1979）：19,26

浅井清信（1902～1992）：32

井ヶ田良治（1926～（2018））：34

石井良助（1907～1993）：19,21,25,26,31

石川一三夫（1944～）：34

板倉伊賀守（勝重, 1545～1624）：24

板倉周防守（重宗, 1586～1657）：24

市川秀雄（1901～1964）：21

伊東祐正（? ～）：32

伊藤博文（1841～1909）：26

井上智勇（1906～1984）：34

猪熊兼繁（1902～1979）：24

今中次磨（1893～1980）：24

岩野英夫（1944～）：32,33,34

上山安敏（1925～（2021））：6,8,9,33

遠藤元男（1908～1998）：20

大石義雄（1903～1991）：11

大石良雄（1659～1703）：11

大隅健一郎（1904～1998）：31,34

大橋智之輔（1928～）：32

大平祐一（1946～）：4,33

小川英機（? ～）：13

尾佐竹（猛, 1880～1946）：25,26

押川和一郎（筆名?）：31

小田輝子（1927～（2022））：3,4,6,14,18,19,21,30,31,35

落合弘樹（1962～）：33

(か行)

加古祐二郎 (1905～1937) : 32
片山國嘉 (1855～1931) : 29
加藤友康 (1948～) : 21,33
金田平一郎 (1900～1950) : 3,7,35
鎌田浩 (1931～) : 21
岸本美緒 (1953～) : 33
北原章男 (1939～) : 20
清兼正徳 (1914～ (2018)) : 33
金吾中納言 (小早川秀秋, 1582～1602) : 11
久保正幡 (1911～2010) : 6,8
栗生武夫 (1890～1942) : 2,3,4,6,7,8,9,11,12,14,33,35
小泉輝三朗 (1895～1992) : 33
小早川巖 (? ～2006, 99 歳) : 3,18
小早川欣吾 (1900～1944) : (省略)
小早川田鶴子 (令室, 1911～2000) : ⇒長島田鶴子
小林宏 (1931～) : 3,6,7,8,9,29,35
小山松吉 (1869～1948) : 27

(さ行)

清水伸 (1906～1987) : 26,27
白羽祐三 (1925～ (2005)) : 33
末川博 (1892～1977) : 11,23,33
末廣重雄 (1874～1946) : 23
杉本史子 (1958～) : 34
鈴木安蔵 (1904～1983) : 28
住谷悦治 (1895～1987) : 31

(た行)

高塩博 (1948～) :
高柳眞三 (1902～1990) : 21
瀧川政次郎 (1897～1992) : 4,15,19,22,23
竹内英治 (1967～) : 6,8,9,13
田中進 (? ～) : 13
手塚豊 (1911～1990) : 14,32
徳川吉宗 (1684～1751) : 29

(な行)

内藤吉之助 (1894～1946) : 3,7,35

内藤金吾 (? ～) : 34
中尾敏充 (? ～) : 34
中澤巷一 (1930～) : 6,8,9,21
長島田鶴子 (令室, 小早川田鶴子, 1911～2000) : 17
中田薫 (1877～1967) : 22
仁井田陞 (1904～1966) : 17,18,23,25,28
西村精一 (1906～1981) : 25
西山伸 (1963～) : 3,21,31,34
根本誠 (1906～1976) : 26

(は行)

橋本昭 (? ～) : 9,13
羽田亨 (1882～1955) : 28
林紀昭 (1941～) : 33
林純平 (? ～?) : 31
原田一明 (1958～) : 13
服藤弘司 (1921～2005) : 21,32
平松義郎 (1926～1984) : 20
藤田男爵 (平太郎, 1869～1940) : 17
船田享二 (1898～1970) : 2,6,7,8,9,11,12,33,35
星野通 (1900～1976) : 29
細川亀市 (1905～1962) : 23,24,26

(ま行)

前田正治 (1913～1998) : 20,31,33
牧健二 (1892～1989) : 19,20,24,26,27,30,31,34
牧英正 (1924～ (2018)) : 4,6,8,19,21,30
松尾尊兌 (1929～2014) : 3,21,34
宮本 (英脩, 1882～1944) : 28

(や行)

矢野達雄 (1949～) : 34
山形博 (? ～) : 9,13
山崎丹照 (1904～2004) : 3,7,35
由井正臣 (1933～ (2008)) : 21,33
吉田松陰 (1830～1859) : 24

(わ行)

和田清 (1890～1963) : 27

[外国人]

戴炎輝 (1908～1992) : 3,4,7,35

(趙晶 (赵晶、1983～) :)

程樹徳 (1876～1944) : 23

楊鴻烈 (1903～1977) : 22

アラリック二世 (? ～507) : 23

サトウ (1843～1929) : 29

シュペハス, H. (? ～?) : 26

シュミット, W (? ～?) : 25

リヤザノフスキー, V・A (? ～?) : 26

リユーテ, H・H (? ～?) : 27

ロエスレル (1834～1894) : 28

Koch, Matthias (1964～) : 34

(了)